

平面図 A1:S=1/50 (A3:S=1/100)

△ ... プレース位置を示す

口外部仕上表

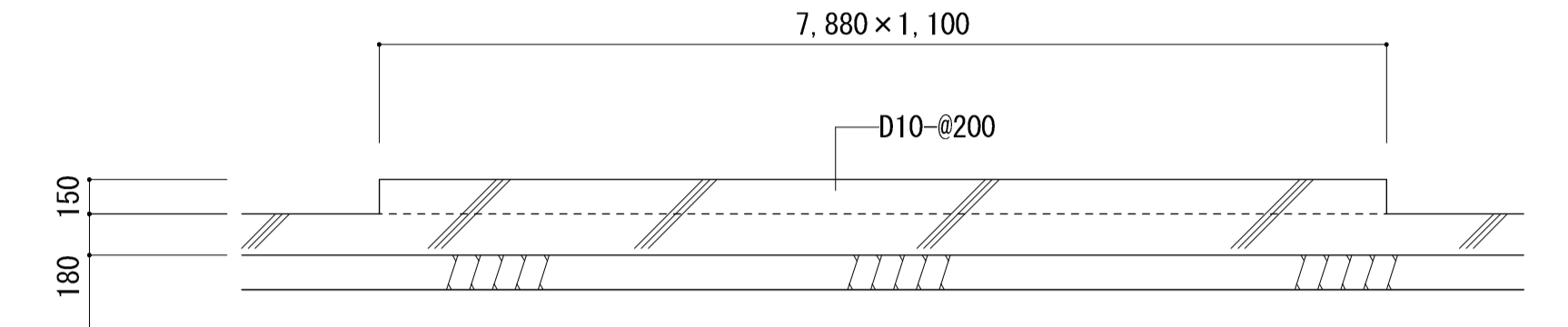
屋根	完全嵌合式立平葺きフッ素珪酸バリウム鋼板t=0.5	TRX-4型/元且同等品以上
軒天	高圧岩綿複層板 t=12.0 + フッ素塗装	EQ1301-1/DAIKEN同等品以上
外壁	窯業系サイディング t=16.0	EPS244/ニチハ同等品以上
基礎	コンクリート打放し仕上 (B種)	
その他	内樋 (フッ素珪酸バリウム鋼板0.5) アルミ製庇 塩ビシート切り文字サインW200 (給食センターサイン図参照)	

口内部仕上表

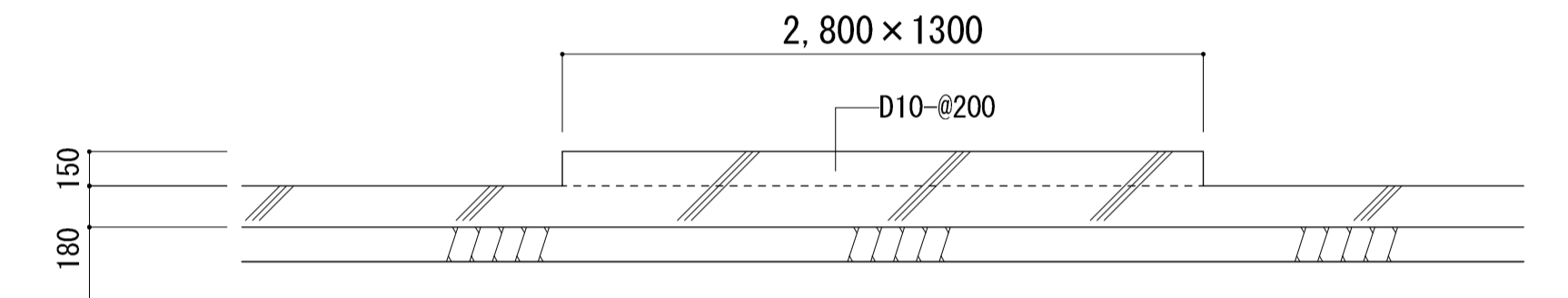
	床	巾木	壁	天井
電気室	コンクリート 金網仕上	無	LGS100@450 GWB t50+GB-R t12.5	LGS19@300 GWB t50+GB-R t9.5
発電機室	コンクリート 金網仕上	無	LGS100@450 GWB t50+GB-R t12.5	LGS19@300 GWB t50+GB-R t9.5

記号	名称	AG-1	防電扉	S=1/30	記号	名称	SD-1	スチール製面開き扉	S=1/50	
	姿図					姿図				
位置	数量	発電機室			1	位置	数量	電気室、発電機室		2
見込	仕上	枠見込100			7#製	見込	仕上	枠見込100		PL-1.0 SOP
ガラス						ガラス				
金物		防虫網・防鳥網共				金物		丁番、レバーハンドル、シリンダ錠、フラス落し、他付属金物一式		
備考		開口率50% 防電扉-100/開発建材同等品				備考				

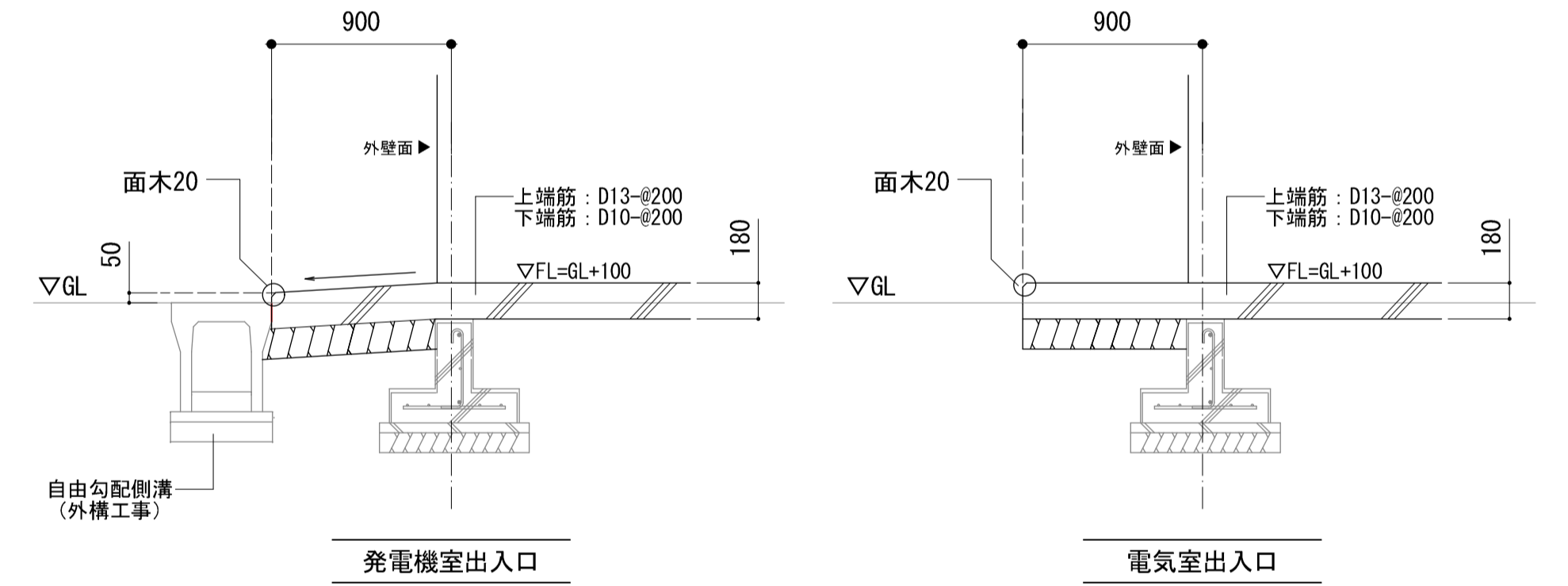
口キュービクル基礎 A1:S=1/30 (A3:S=1/60)



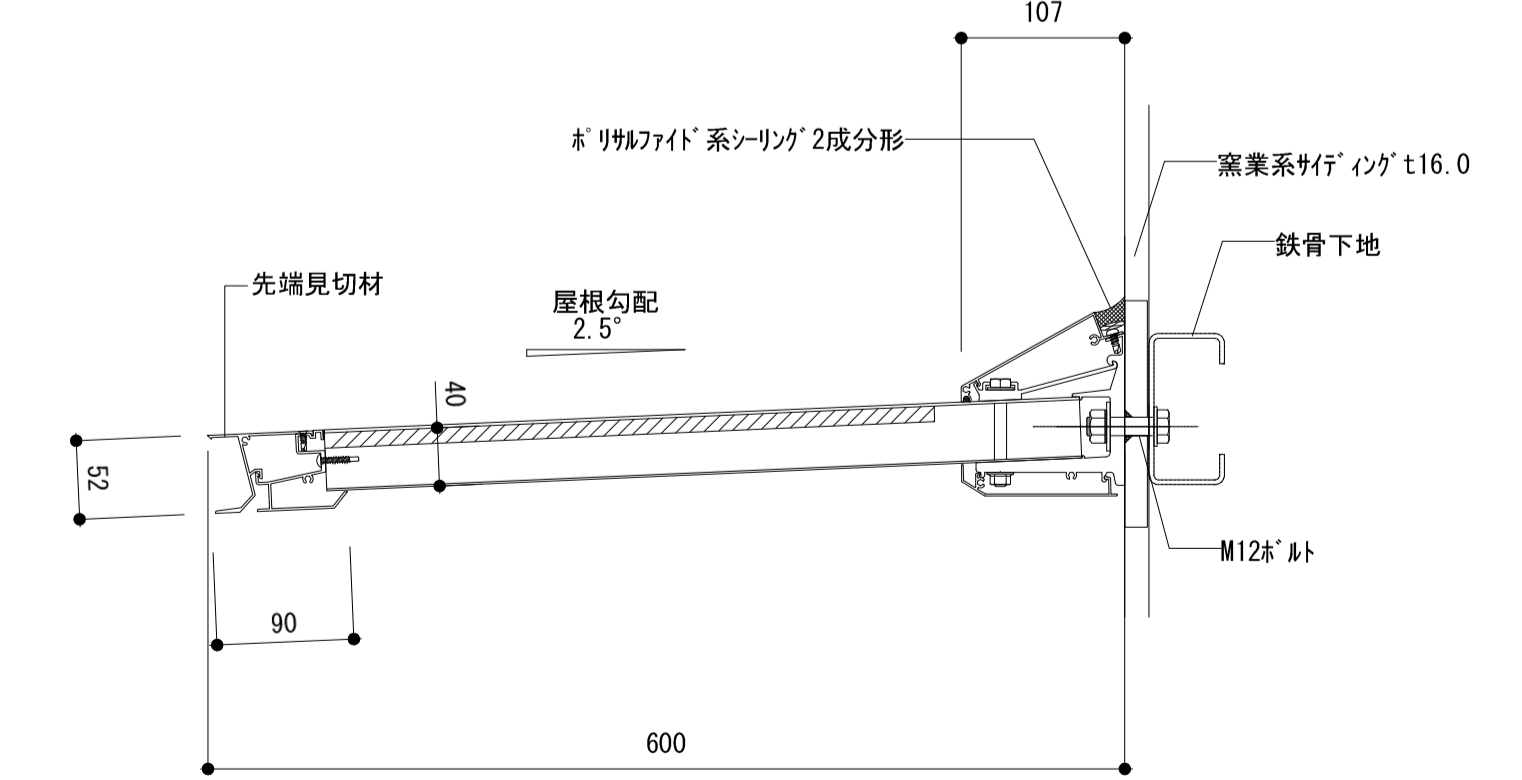
口発電機基礎 A1:S=1/30 (A3:S=1/60)

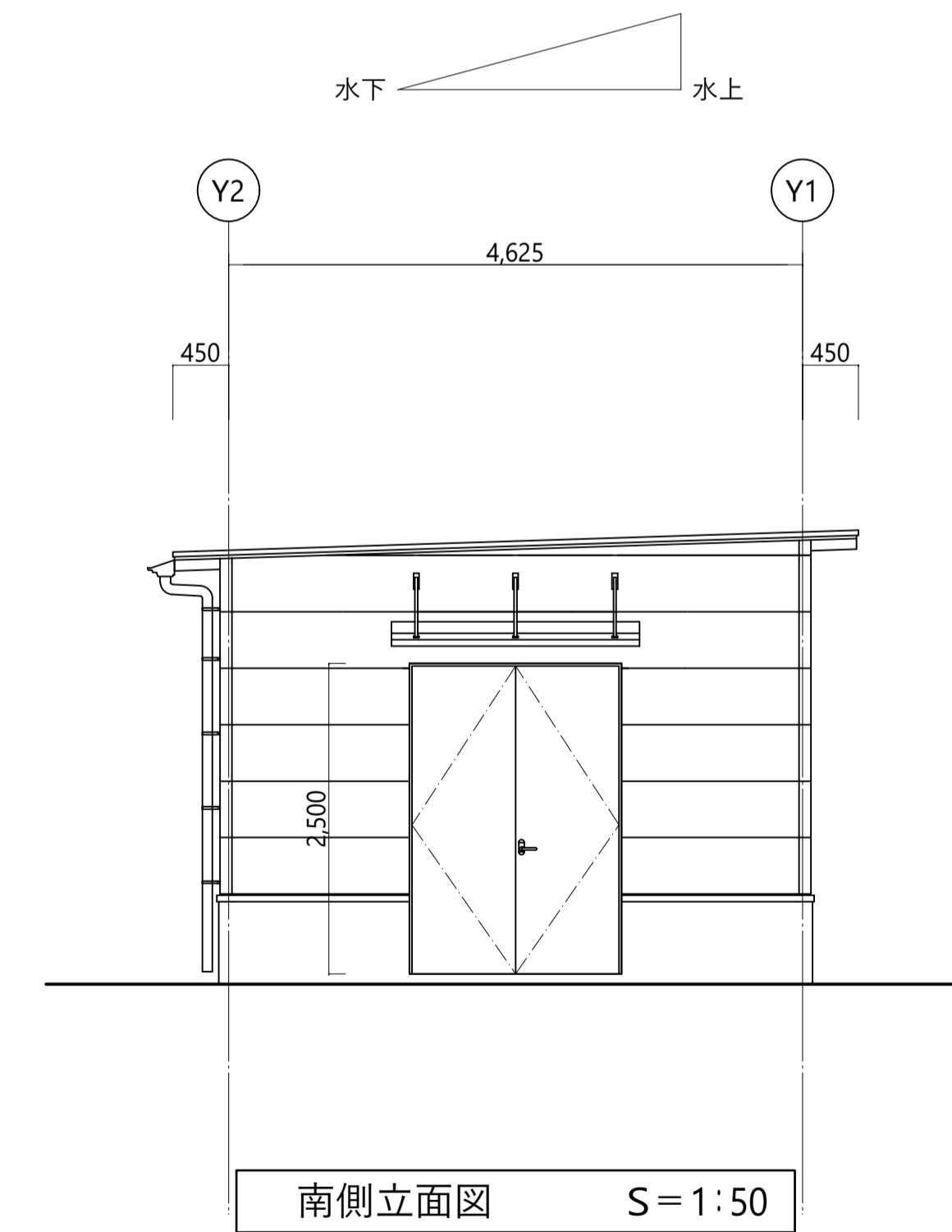
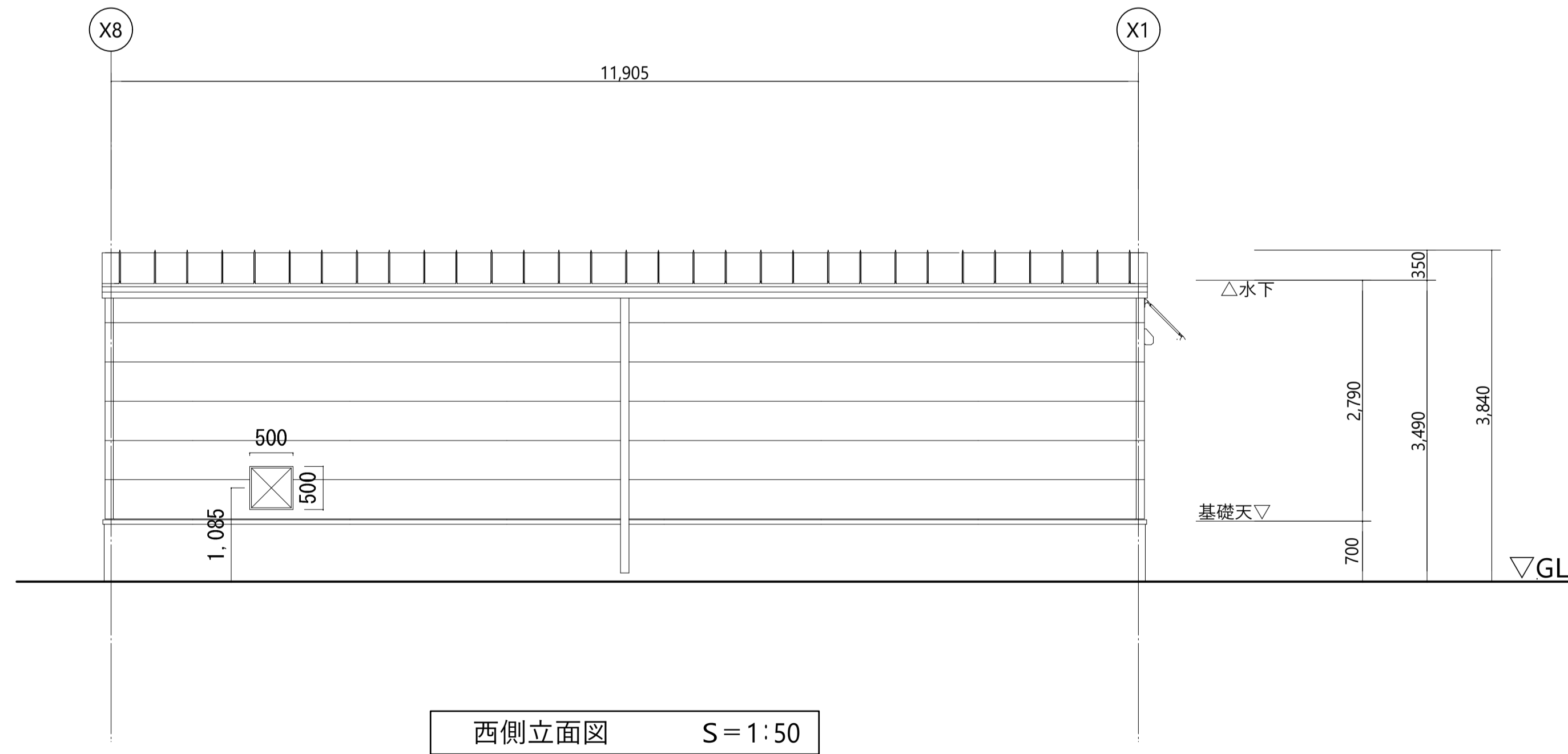
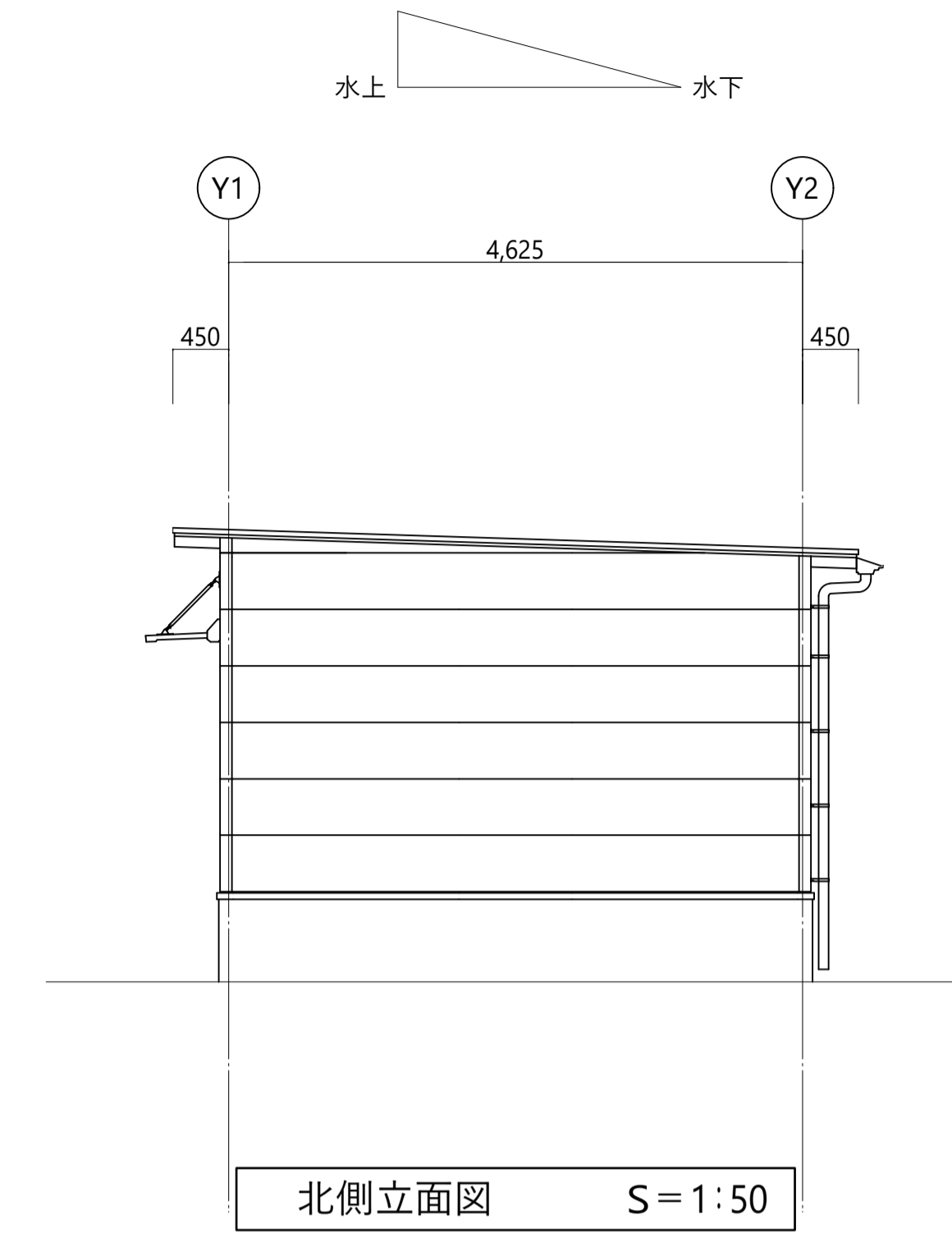
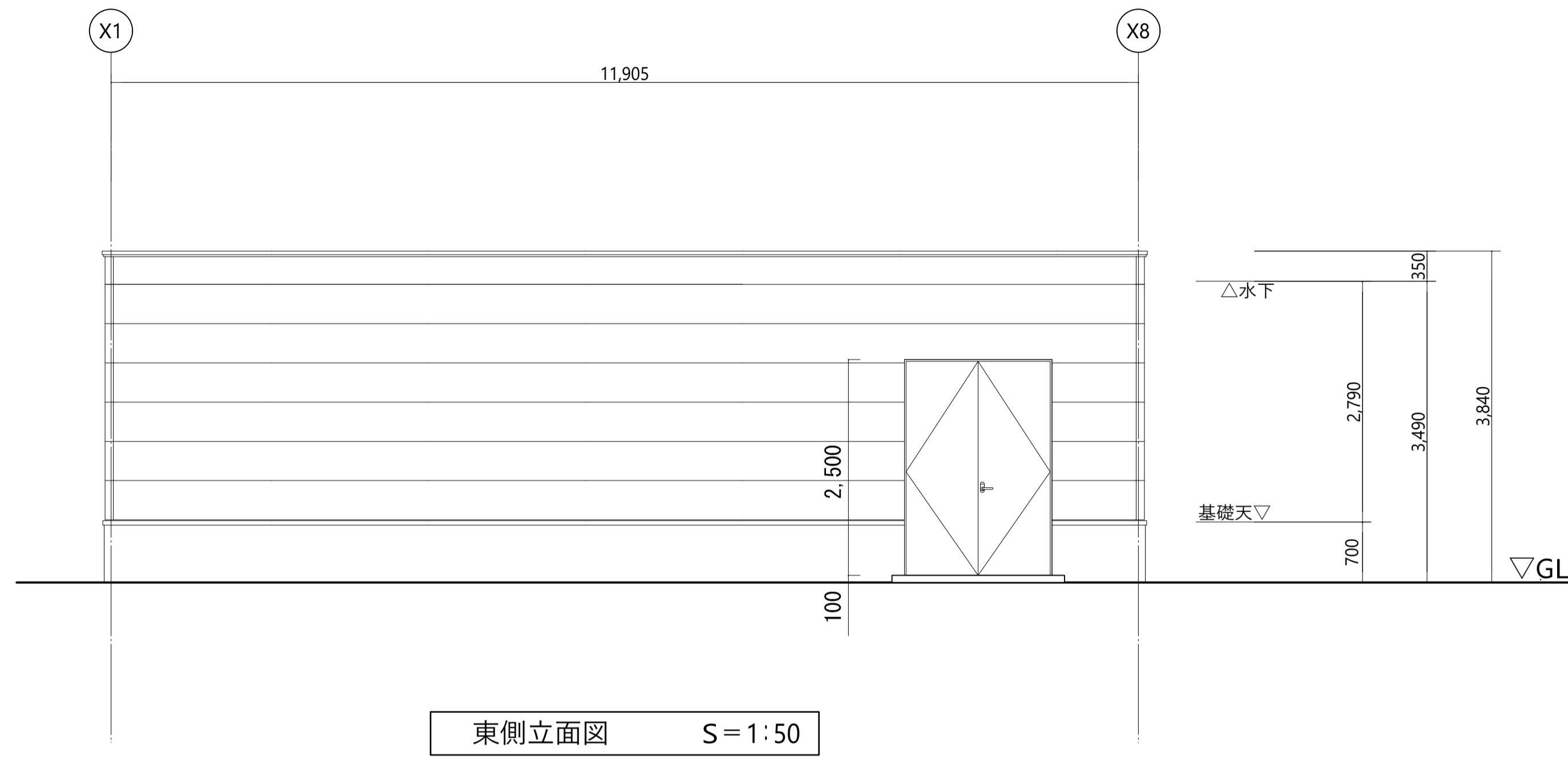


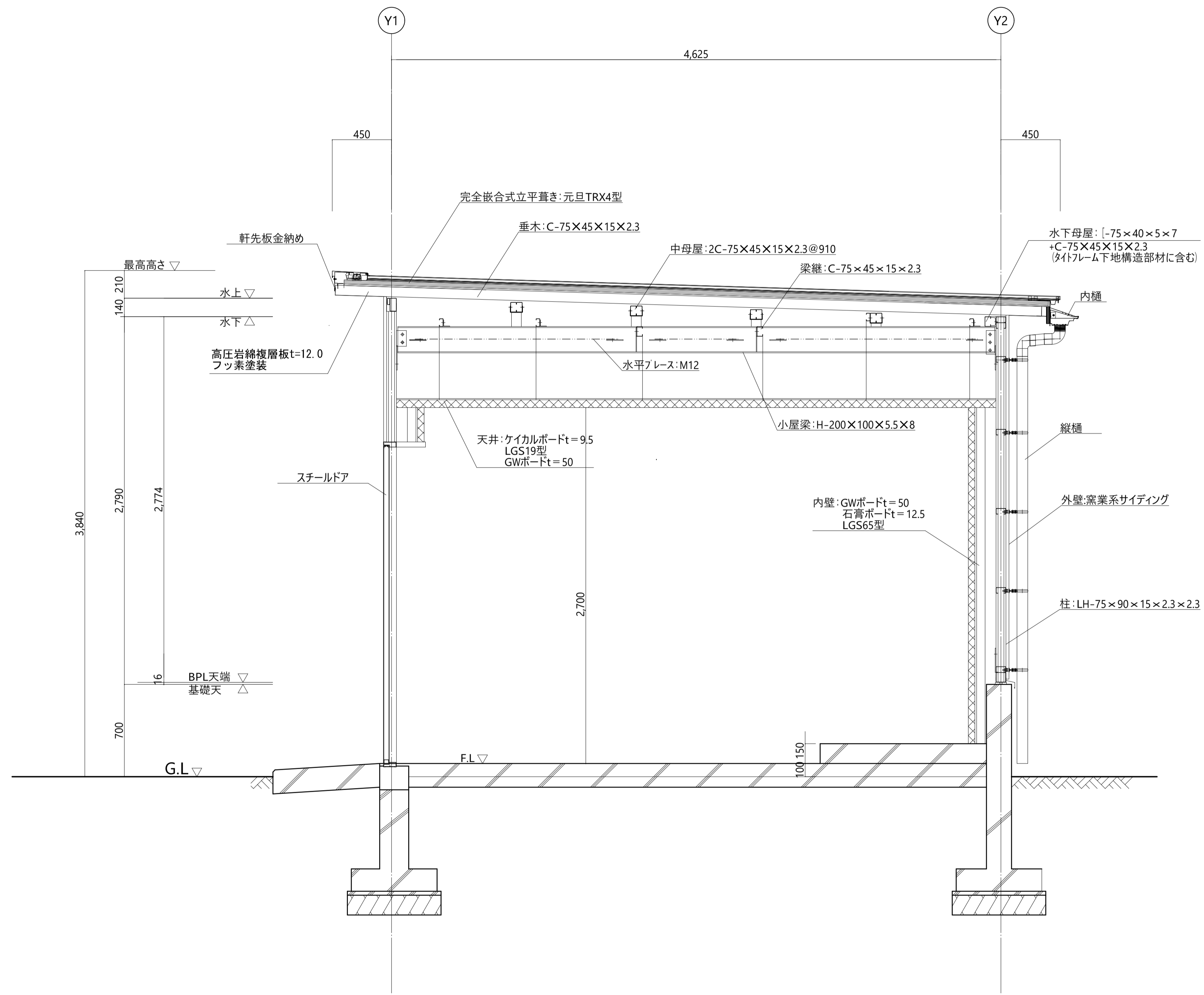
口出入口土間 A1:S=1/30 (A3:S=1/60)



口アルミ製庇 詳細図 A1:S=1/5 (A3:S=1/10)







矩計図 S = 1:20

構造設計特記仕様

※修正箇所は下線を引くこと
適用は ■ 印を記入する。

1. 建築物の構造内容

- 建築名称・場所 (仮称) 大間町学校給食センター建築工事計画書委託 青森県下北郡大間町
- 工事種別 ■ 新築 □ 増築 □ 増改築 □ 改築
- 構造設計一般建築士の関与 □ 必要 ■ 必要としない
 - 法第20条第一号 (高さ30m超)
 - 法第20条第二号 (□R 造高さ10m超 □S造4階以上 □木造高さ13m超□その他)
 注) 構造設計一般建築士の関与が義務づけられる建築物については関係法等を参照して確認する事。
- 構造種別 □ 木造 (W) □ 補強コンクリートブロック造 (CB)
 - 鉄骨造 (S) □ 鉄筋コンクリート造 (RC)
 - 壁式鉄筋コンクリート造 (WRC) □ 鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC)
 - 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造 (WPRC)
 - プレキャスト鉄筋コンクリート造 (PRC)
- 階数 1 楼 地下 1 階 地上 1 階 塔屋 1 階
- 主要用途 電気/発電機庫 倉庫積載床用 1 階 M²
 - 高架水槽 →M □ キュービクル →M
 - 広告塔 □ 煙突
- 特別な荷重 □ エレベータ 人乗 (マシニングレス ロープ式・油圧式) □ リフト →M
 - ホイスト →M □ 倉庫積載床用 →M □ 受水塔 →M
- 付帯工事 □ 門扉 □ 擁壁 □ 駐輪場 □ 機械式駐車場
- 増築計画 □ 有 () □ 無
- 構造計算ルート X 方向ルート 1-2 Y 方向ルート 1-2
- 設定条件 最深積雪量 80cm 未満 単位積雪重量 20N/m² 基準風速 34m/s 以下 地表面粗度区分Ⅲ

2. 使用建築材料表・使用構造材料一覧表

適用箇所	種類	設計基準強度 F _c = N/mm ²	品質基準強度 F ₁ = N/mm ²	スランプ m	備考
捨てコンクリート	■ 普通	1.5	—	—	
土間コンクリート	■ 普通	2.1	1.8	1.8	
基礎、基礎梁	■ 普通	2.1	2.1	1.8	
柱、梁、床、壁	□ 普通 □ 軽量				比重
押えコンクリート	□ 普通 □ 軽量	—	—	—	比重
細骨材の種類	■ 砂 □ 山砂 □ 人工 □				
粗骨材の種類	■ 砂利 □ 砕石 □ 人工 □				
水の区分	■ 水道水 □ 地下水 □ 工業用水 □				
混和材料の種類 (JIS)	□ AE 減水剤 □ 高性能減水剤 □				
呼び強度を保證する材齢、養生	■ 材齢 (■ 28 日 □ 54 日 □) ■ 養生 (現場封かん 曬場水中 標準 □)				

□単位水量は185kg/m³ 以下、単位セメント量は70kg/m³ 以上とする。

- コンクリート (レディーミクストコンクリート JIS Q 1001, JIS Q 1011, JIS A 5308)
 - A 種 □ B 種 □ C 種 厚 □ 100 □ 120 □ 150 □ 190 使用箇所 (□ □)

鉄筋	種類	径	使用箇所	継手工法	
				■ 重ね継手	□ ガス圧接継手
異形鉄筋 (JIS 6 3112)	■ S235 A	D16 以下	基礎	□	□
	■ S235 B			□	□
	□ S245	D19 以上	基礎	□	□
	□ S250			□	□
高強度せん断補強筋	□ 材種				()
	□ 大臣認定番号 M395-				各継手の使用詳細については本仕様、②鉄筋の項の鉄筋継手等の■にて表示すること。
丸 鋼 (JIS 6 3112)	□ S235				
溶接金網 (JIS 6 3551)	□				

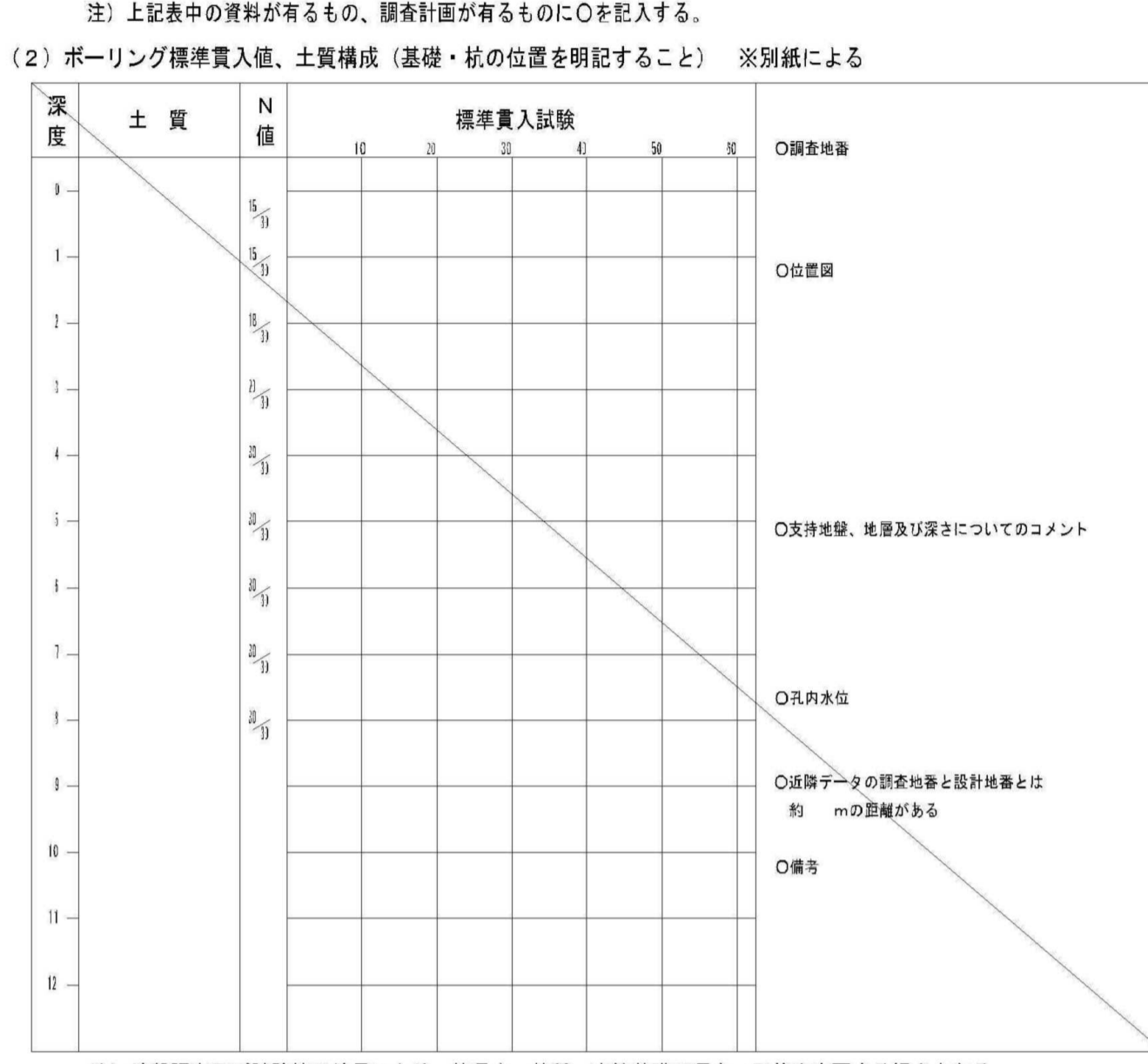
種類	使用箇所	現場溶接	JIS 規格・認定番号等
■ S243 □ S247 □ S240 A, B, C	梁	□ 有 □ 無	JIS 6 3101
■ S240C □ S240E	柱	□ 有 □ 無	JIS 6 3486
□ S255 □ S255 □ S255		□ 有 □ 無	大臣認定品認定番号 M17-
□ S260 A □ S260 B □ S260 C		□ 有 □ 無	JIS 6
■ S270 □ S270L ■ S280	梁、壁、柱、材、梁	□ 有 □ 無	JIS 6 3353 / JIS 6 3353
■ S280E	水平ブレース、壁ブレース	□ 有 □ 無	JIS A 5540
溶接材料 □ JIS 7			

- ボルト ○使用箇所の詳細については別途図示とする。
 - 高力ボルト
 - F10T (JIS B1185) □ F8T 国土交通大臣認定品 M17-0509 同等品 (□M16, □M20, □M22, □M24)
 - ボルト (JIS B1180) ■ M 12 ■ M 16 □ M 20 □ 強度区分 4.6・4.8 ■ 強度区分 8.8
 ※ブレース部は、JIS A 5540 の場合強度区分 0.9 を使用し、それ以外の部位は強度区分 4.8 を使用する
 - アンカーボルト
 - S240 M 16 L=400 mm ナット (□ シングル、 ■ ダブル)
 - S240 M L= mm ナット (□ シングル、 □ ダブル)
 - 頭付スタッドボルト
 - φ= mm L= mm 使用箇所 (□ 柱 □ 大梁 □ 小梁)
 - φ= mm L= mm 使用箇所 (□ 柱 □ 大梁 □ 小梁)

材種	型式	厚	その他	使用箇所	仕様・構法
鉄板 (JIS A 5416)		厚		□ 壁 □ 床版	□ スライド □ ボルト止め □ ロッキング □
折板		厚 0.8		■ 屋根	□ □
特殊デッキプレート (JIS 6 3352)	型式	厚		□ 床版 □ □	
デッキプレート (JIS 6 3352)	型式	厚		□ 床版 □ □	
キーストーンプレート (JIS 6 3352)	型式	厚		□ 床版 □ □	

3. 地盤

調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	調査計画	資料有り	調査計画
ボーリング調査			静的貫入試験			
水平地盤反力係数の測定			土質試験			
試験錐 (支持層の確認)			平板載荷試験			
スウェーデン式サウンディング			現場透水試験			



注) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長さ、杭径、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

4. 地業工事

- 直接基礎 □ ベタ基礎 ■ 布基礎 □ 独立基礎 試験掘 □ 有 □ 無
 - 深さ 6L-0.6 m、支持層 シルト 6L 長期許容支持力度 50 kN/m² 載荷試験 □ 有 □ 無
- 地盤改良 □ 浅層混合処理工法 ■ 深層混合処理工法 □
 - 深さ 6L-0.4 m 長期許容支持力度 50 kN/m² 載荷試験 □ 有 □ 無
- 杭基礎 支持層 ー
 - 注) 「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針 (日本建築センター)」を参考とする

杭種	材料	施工法	備考
□ 管 □ 桁	PRC (□ I 種 □ II 種 □ III 種)	□ 打ち込み	
□ PHC □ H 鋼	PHC (□ A 種 □ B 種 □ C 種)	□ 埋込み (セメントミルク工法)	
□ 鋼管 □ 摩擦杭	鋼材 □ S240 □ S240C □ S240D		
□ S2 杭	□ JIS		
□ 場所打ちコンクリート杭	コンクリート F _c = N/mm ² スランプ cm 以下 セメント量 kg/m ³ 単位水量 kg/m ³ 鉄筋 主筋 φ mm 筋 φ mm	□ オールケーシング □ 掘削杭 □ リバースサーキュレーション □ アースドリル □ ミニアース □ BH □ 深礎 (□手掘 □機械掘)	認定第 号 年 月 日 第 号 年 月 日

杭仕様 □ 施工計画書承認 □ 杭施工結果報告書
試験杭 (□有 □無) (□打ち込み □載荷 □孔壁測定) 本

杭径 (mm)	設計支持力 (kN)	杭の先端の深さ (m)	本数	特記事項
φ	—	6L—	—	

5. 鉄筋コンクリート工事 (施工方法等計画書)

本構造設計特記仕様はコンクリートの設計基準強度 (F_c) が 36 N/mm² 以下に適用し、鉄筋の材種は S240 以下に適用する。

- コンクリート
 - コンクリートは JIS A 5308 (レディーミクストコンクリート) に適合する 認証工場の製品とし、施工に関しては標準図に記載されている事項を除き、JASS 5 による。JASS 5 は鉄筋コンクリート工事 2010 年度版とする。
 - 耐久設計基準強度 F_{cd} ■ 短期 (30日) □ 標準 (240日) □ 長期 (300日)
 - セメントは、JIS R 5210 の普通ポルトランドセメントを標準とする。
 - 調査計画は、工事開始前に工事監督者の承認を得ること。
 - 寒中、曇中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監督者の承認を得ること。
 - フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で (財) 国土開発技術研究センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を 1 回の測定ごとに撮影した写真 (カラー) を保管し承認を得る。
 - 測定検査の回数は、通常の場合、1 日 1 回以上とし、1 回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて 3 回行い、その平均値を試験値とする。
 - 構造物コンクリートについて現場の圧縮強度試験方法 JIS A 5308 によることとし、供試体は現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。
 - また、打ち込み量が 50m³ を超える場合は 150m³ ごとまたは、その端数ごとに 1 回を標準とする。
 - 1 回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた 3 台の運搬車からその必要本数を採取する。
 - なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1 回当り 6 本以上とし、そのうち 4 適用に 3 本を用いる。
 - ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さはコンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に限っては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継継中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温度 5℃未満の場合は 150 分以内、25℃以上の場合は 120 分以内とする。
 - コンクリート打ち込み中及び打ち込み後 5 日間は、コンクリートの温度が 2 度を下らないようにする。
 - 乾燥、振動等によってコンクリートの凝結及び硬化が妨げられないように養生を行う。
- 鉄筋
 - 鉄筋は JIS 6 3112 の規格品を標準とする。施工は、標準図に記載されている事項を除き、コンクリートと同様に、JASS 5 による。
 - 高強度せん断補強筋は JIS 6 3137 に規定される D 種 1 号適合品とする。
 - 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) (2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) (2)」による。

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級			鉄筋の径
	(1) 引張力最小部位	(2) (1) 以外の部位 (注)		
■ 重ね継手	■ 現 □ 並 □ () □	A 級	B 級	■ D (19) 以下
□ 圧接継手	□ 告示 443 号第 2 項各号	□	□	□ D () 以下
□ 溶接継手	□ 告示 463 号第 3 項各号	□ □	□ □	□ () 以下
□ 機械式継手	□ 告示 463 号第 4 項各号	□ □	□ □	□ D () 以下

注) (1) 以外の部位に設ける継手は、平成 9 年告示第 463 号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取付した継手工法等級で、構造計算にあたって「鉄筋継手使用基準 (建築物の構造関係技術基準解説書 07)」によって検討した部材の条件・仕様によること。

- D 19 未満は、すべて重ね継手とする。
- 継手部分の施工要領 (社) 日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」 (ガス圧接継手工事、溶接継手工事、機械式継手工事) による。
- 継手部分の検査方法: ・外観検査 有 □ 無 □ ・引張試験 有 □ 無 ・超音波探傷試験 有 □ 無 □ □
- ガス圧接部分の検査を超音波探傷試験によって行う場合、最初の数ロットについては引張試験も併用し、1 回の試験は 5 本以上とする。
- (1 ロットは同一作業班が同一日に作業した圧接箇所等 箇所程度とする)
- 柱の帯筋 (00P) の加工方法は、□ H 型 (タ型型) □ W 型 (溶接型) □ S 型 (スパイラル型) とする。
- コンクリート及び鉄筋の試験は下記の試験機関で行うこと。
 - 試験機関名-工事監督者が指定する試験機関
 - 代行業者名-工事監督者が指定する代行業者
 - 代行業者とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。

- 型 枠
 - 材料 合板厚 12mm を標準とする。 ■ 施工 JASS 5 による。
 - 型枠存置期間

環境条件	せき板				支 柱			
	基礎、梁側、柱、壁	スラブ下、梁下	スラブ下		スラブ下		梁下	
セメントの種類	普通ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	高炉セメント A 種	高炉セメント A 種	高炉セメント A 種	高炉セメント A 種	高炉セメント A 種	高炉セメント A 種
	高炉セメント A 種	高炉セメント A 種	シリカセメント A 種	シリカセメント A 種	シリカセメント A 種	シリカセメント A 種	シリカセメント A 種	シリカセメント A 種
	高炉セメント A 種	高炉セメント A 種	シリカセメント A 種	シリカセメント A 種	シリカセメント A 種	シリカセメント A 種	シリカセメント A 種	シリカセメント A 種
コンクリートの平均気温	15℃以上	2	3	4	6	8	1.7	2.8
	5℃-15℃	3	5	6	1.0	1.2	2.5	2.8
	5℃未満	5	8	1.0	1.6	1.5	2.8	2.8
コンクリートの圧縮強度	5.0 N/mm ²	設計基準強度の 90%		設計基準強度の 85%		設計基準強度の 100%		

- 1 片持ち梁、応、スパン 9.0m 以上の梁下は、工事監督者の指示による。
- 2 大梁の支柱の盛りかえは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。
- 3 支柱の盛りかえは、必ず直上層のコンクリート打ち後とする。
- 4 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
- 5 支柱の盛りかえは、小梁が終わってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
- 6 直上層に薄く大きい積載荷重がある場合においては、支柱 (大梁の支柱を除く) の盛りかえを行わないこと。
- 7 支柱の盛りかえは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動又は衝撃を与えないように行うこと。

6. 鉄骨工事 (施工方法等計画書)

- 鉄骨工事は指示のない限り下記による
 - 日本建築学会「JASS 6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
 - 社) 日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
 - 鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」
- 工事監督者の承認を必要とするもの
 - 製作工場 □ 製作要領書 □ 工作図 □ 施工計画書
 - 認定または登録工場 (大臣認定 S H M R J グレード 都登録 T1 T2 T3 ランク)
 - 材料規格証明書※、または試験成績書
 - 鋼材 □ 高力ボルト □ 特殊ボルト □ 頭付スタッド
- ※規格品証明書・原本・規格品証明書・製品証明書
- 社内検査表 □ □
- (3) 工事監督者が行う検査項目 (■印以外の項目の検査結果については、工事監督者に報告すること)
 - 現状検査 □ 組立・開先検査 □ 製品検査 □ 建方検査
- (4) 接合部の溶接は下記によること
 - 平成 2 年建設省告示第 464 号第二号イ、ロ
 - 鉄骨造等の建築物の工事に關する東京都取扱要綱
 - 日本建築学会「溶接工作基準、同解説 I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII、IX」
 - 日本建築学会「鉄骨工事技術指針 工事現場施工編」
- (5) 接合部の検査
 - 溶接部の検査 (検査結果は後日工事監督者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査又は検査数			備 考
		工場自主検査	第三者受入検査	工事監督者	
完全溶込み溶接部 (突合せ溶接)	外観検査 (※)	—% 個	—% 個	—% 個	※平成 2 年建設省告示第 464 号第二号による (目視及び計測)
	超音波探傷試験	—% 個	—% 個	—% 個	
	内質検査 (注)	—% 個	—% 個	—% 個	
	マクロ試験・その他	—% 個	—% 個	—% 個	
■ 隅肉溶接部	外観検査 (※)	100 % 個	—% 個	—% 個	

第三者検査機関とは、建築主、工事監督者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。

- 1) 知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、発生前に対応策を建築主事等に報告すること
- 高力ボルトの検査 (検査結果は後日工事監督者に報告すること)
 - 軸力導入試験 □ 要 □ 不要 □ 高力ボルトすべり係数試験 □ 要 □ 不要
 - 一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共回り等の異常が無いことを確認する。
 - トルシヤ形高力ボルトは二次締め後、ピンチールが破断していることを確認する。

7. 設備関係

- 建築設備の構造は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。
- 建築設備の支持構造部および緊結金物には、錆止め等、防錆のための有効な措置を講ずること。
- 建築物に設ける屋上からの突出する水槽・煙突・その他これらに類するものは、風圧・地震力等に対して構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。
- 煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを 5cm 以上とした鉄筋コンクリート造とすること。
- 設備配管は、地震時等の建物変形に追従できること、また、地震力等に対して適切に支持されていること。
- 設備機器の架台及び基礎については、風圧・地震力等に対して構造耐力上安全であること。
- エレベーターの駆動装置等は、構造物に安全に緊結されていること。
- 特記以外の貫通孔は原則として設けない。
- 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合は、スラブ厚さの 1/3 以下とし管の間隔を管径の 3 倍以上かつ 5cm 以上を原則とする。
- 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備 (給湯設備を除く) は、
 - 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
 - 建築物の部分を通って配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
 - 管の伸縮その他の変形により、当該管に損傷が生ずる場合において、伸縮継手又は可動継手を用いる等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
 - 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
- 給湯設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。高水時の質量が 5kg を超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成 2 年建設省告示第 383 号第 5 に規定する構造方法によること。

8. その他

- 諸官庁への届出書類は滞りなく提出すること。
- 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監督者に報告すること。
- 必要に応じて記録写真を取り保管すること。

鉄骨構造標準図 (2)

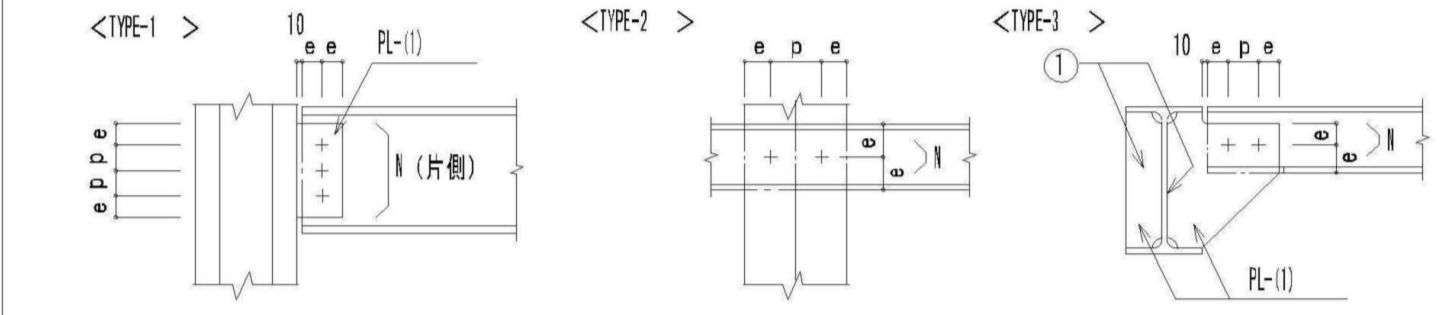
3. 継手規準図、その他

(1) ボルト、アンカーボルトのピッチ X

呼び径 d	ボルト 穴径	最小縁端距離 (e)		ピッチ (P)	
		(1)	(2)	(1) (2) の標準	最小 標準
ボルト	M12	13	18	20	45
	M16	17	22	30	60
	M20	21.5	28	40	80
	M24	25.5	35	50	100
アンカーボルト	M12	17	18		
	M16	21	21		
	M20	25	25		
	M24	29	28		
M30	35	35			
M36	41	40			
M42	47	46			
M48	53	52			
M54	59	58			
M60	65	64			

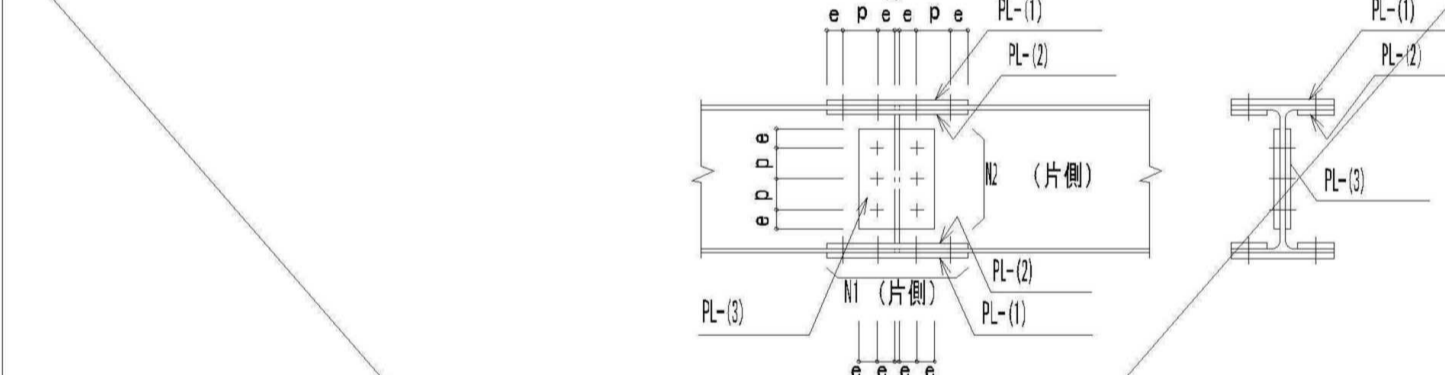
【注】 (1) せん断線・手動ガス切断線の場合の縁端距離
(2) 圧延線・自動ガス切断線・のこりき線・機械仕上線の場合の縁端距離

(2) ピン接合梁継手リスト



符号	タイプ	部材	PL (1)	PL (2)	N-径
Rb1	1	H-200x100x5.5x8	8		2-M16
Rb2	2	L-100 x 50 x 5 x 7.5	4.5		2-M12

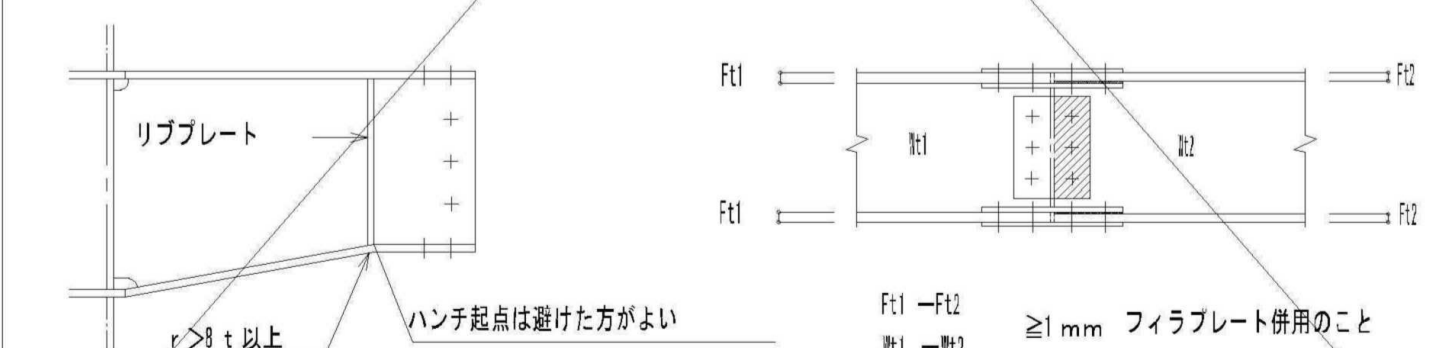
(3) 剛接合継手リスト



【注】 端部部材とする部材は設計図による

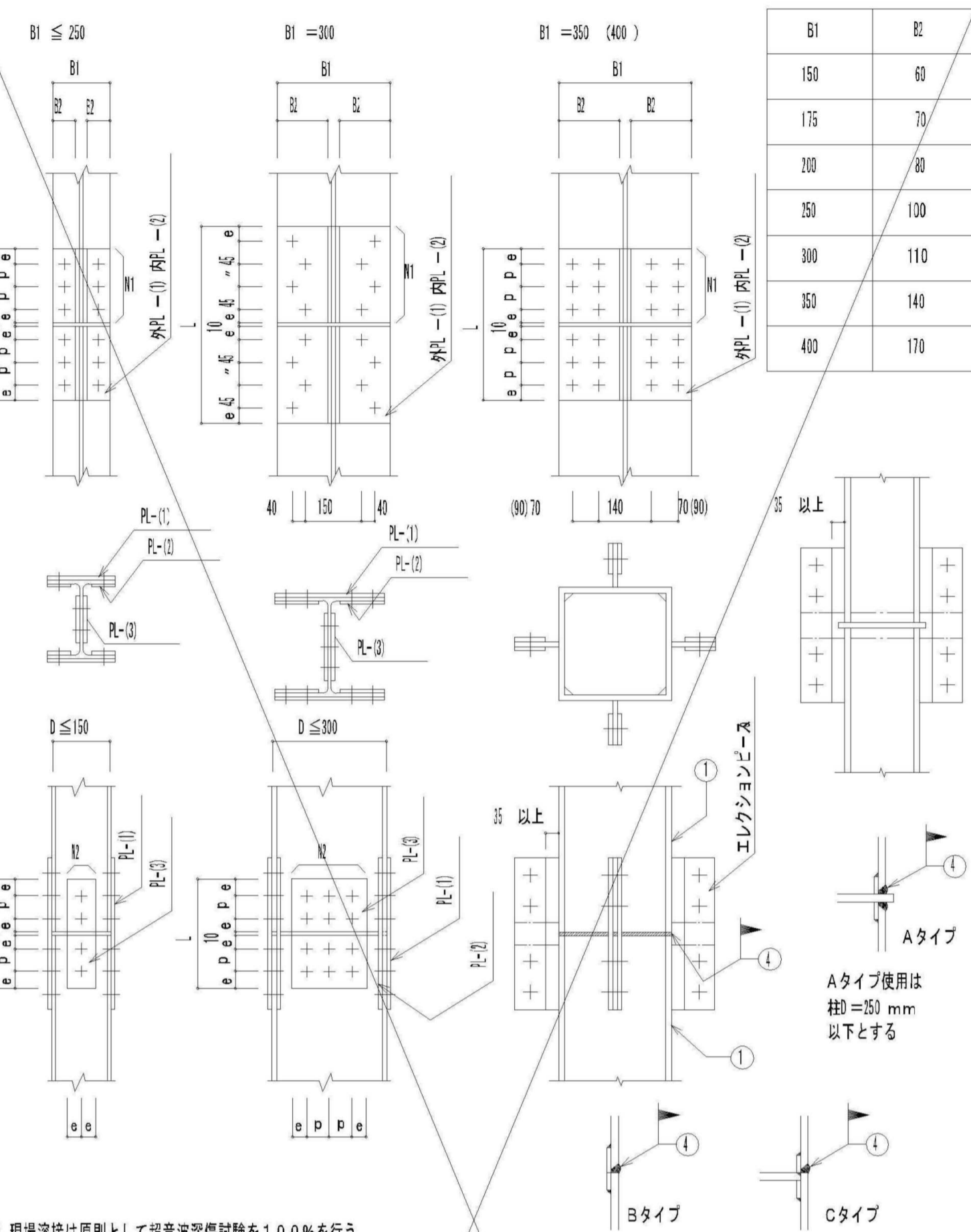
符号	部材	フランジ		ウェブ	
		PL (1)	PL (2)	N1-径	N2-径

(4) ハンチ部の継手



ハンチ勾配は普通：4程度であるが構造図による
r: 半径 t: 板厚

(5) 柱継手リスト



【注】 現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%を行う

符号	部材	フランジ		ウェブ	
		PL (1)	PL (2)	N1-径	N2-径

(6) 鉄筋ブレース

(a) 羽子板ボルト

軸径 d	ねじの呼び (d)							
	M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24	
最大	10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99	
最小	10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77	
調整ねじの長さ	s	100	115	125	140	165	175	
取付ボルト穴径 許容差 +0~-0.5mm	R	13	17	17	21.5	21.5	21.5	
はしあき (最小)	(2) e1	35	40	45	50	55	50	
切板製	へりあき (最小)	(1) e2	22	25	28	34	38	32
	板厚	t	4.5	5	5	5	9	9
平鋼製	へりあき (最小)	(1) e2	19	25	25	32.5	32.5	37.5
	板厚	t	4.5	5	5	5	9	9
取付ボルト (2)	ボルト端から取付ボルト 穴芯のあき (最小)	e3	47	52	56	66	72	70
	溶接長さ (最小)	L	40	50	55	60	75	85

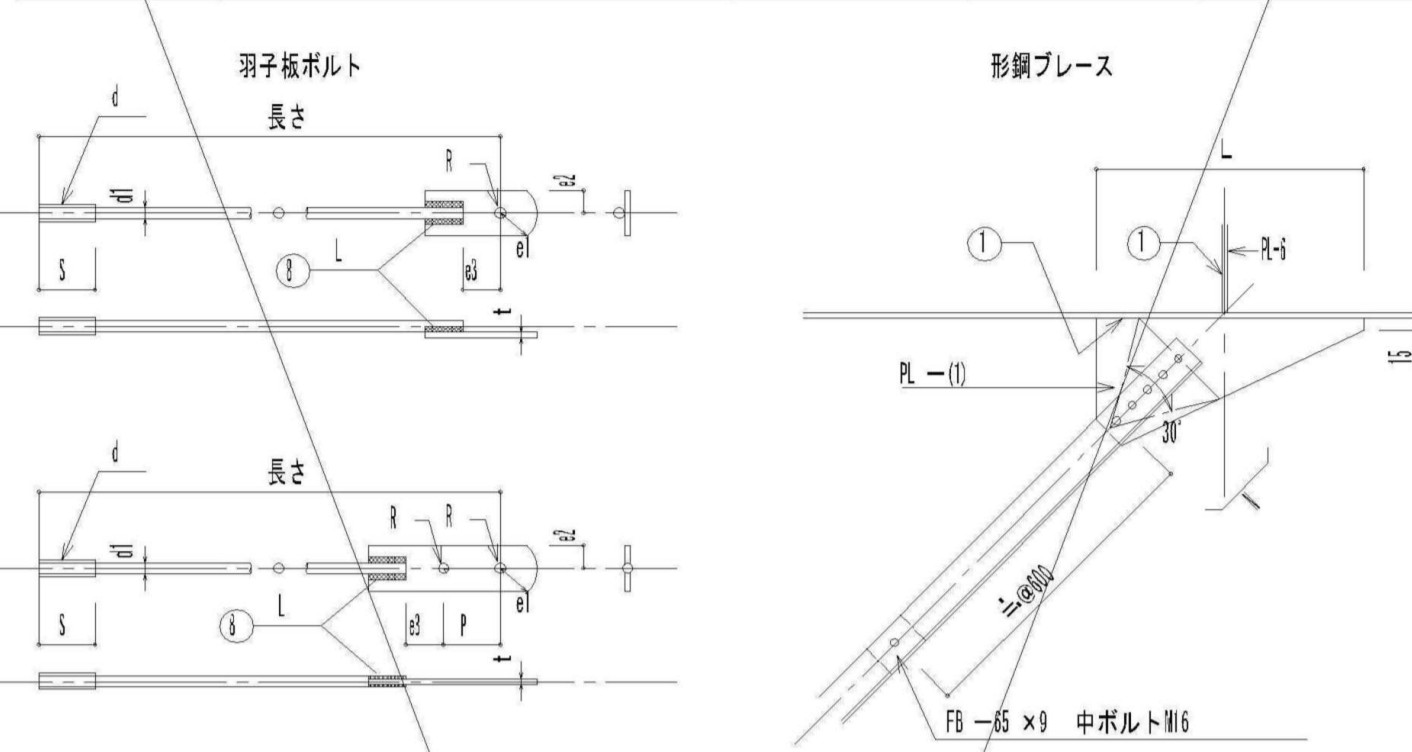
種類 JIS B 1196 2種高力ボルト (10F)

取付ボルト (2)	ねじの呼び						
	M12	M16	M18	M20	M22	M24	
本数	1	1	1	1	1	2	

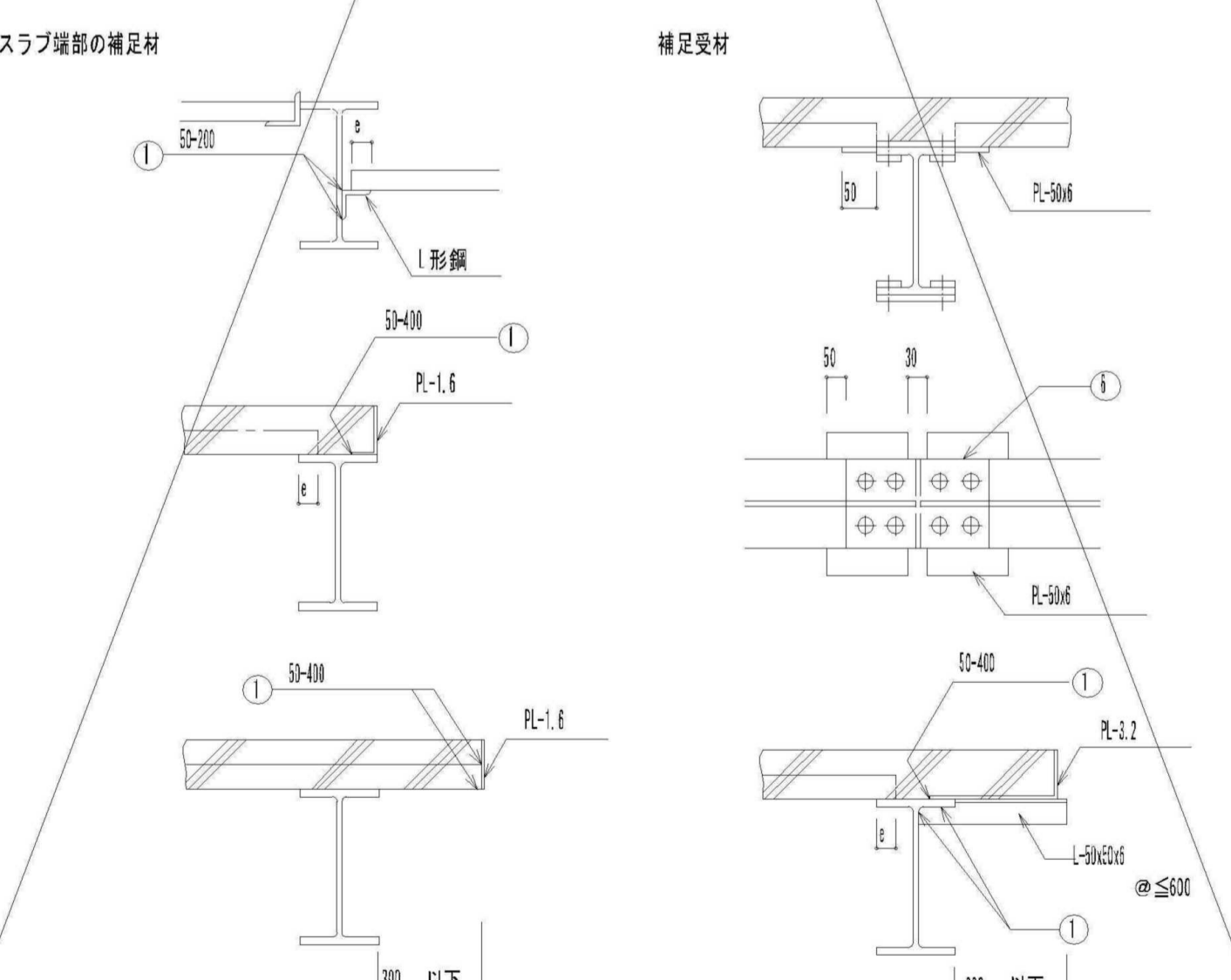
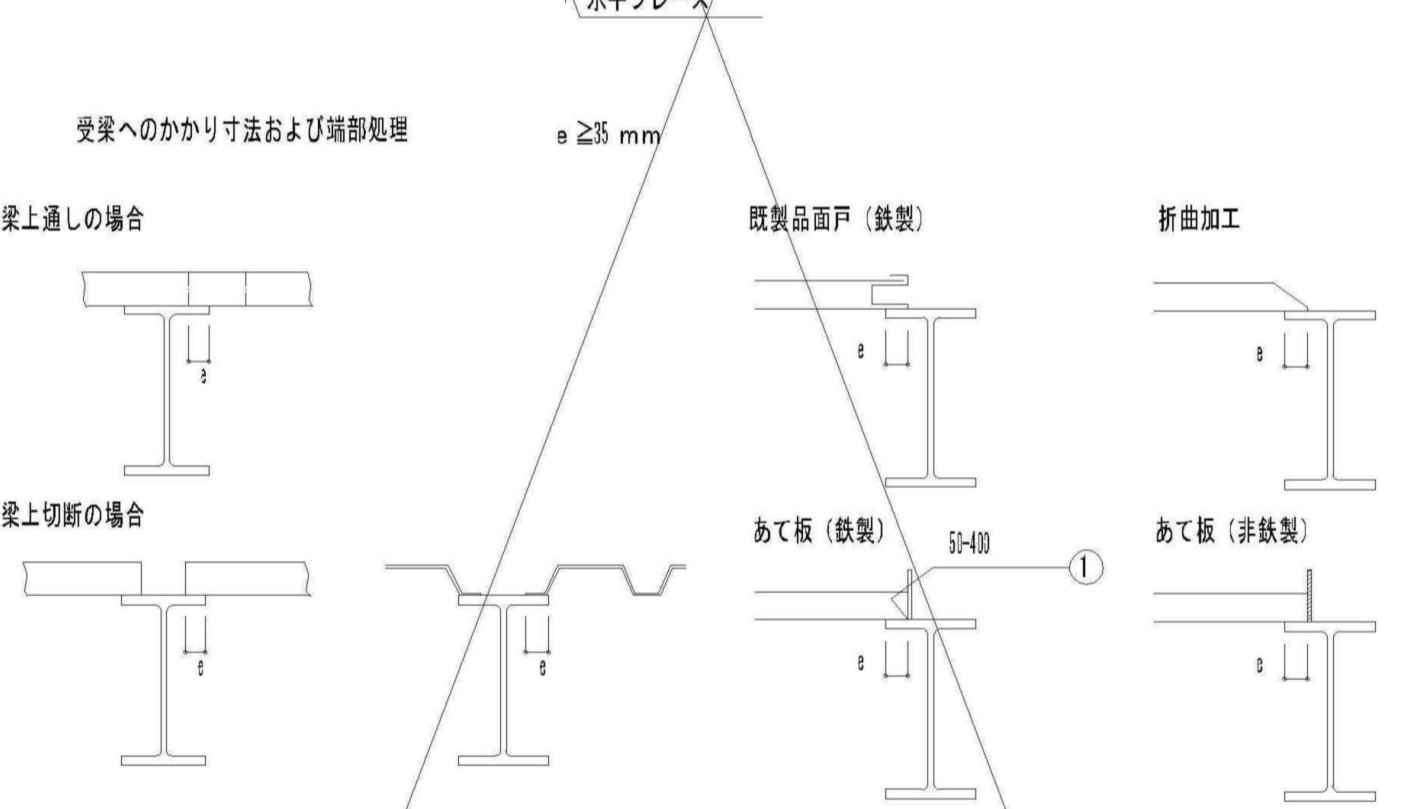
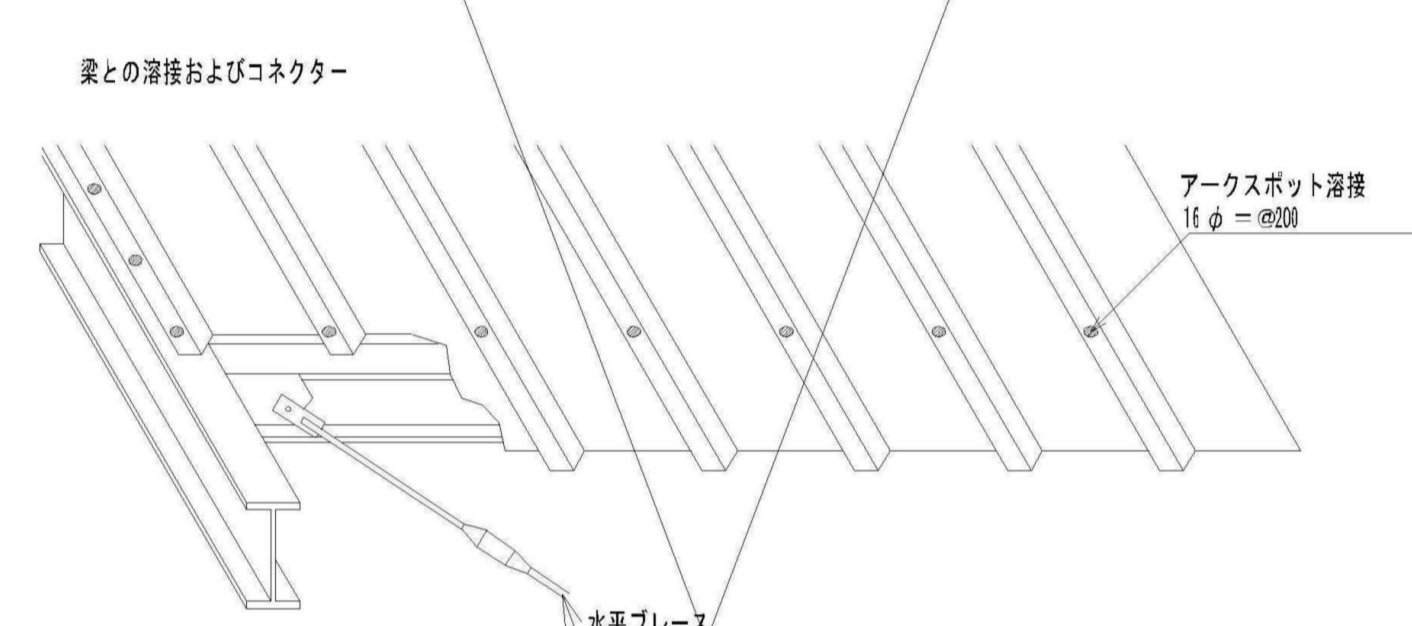
【注】 (1) e1, e2 が確保されていれば形状は自由でよい
(2) 羽子板とガセットプレートの接合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断 (支圧) 接合とする

(b) 形鋼ブレース

符号	部材	PL (1)	N-径	L



(7) デッキプレート

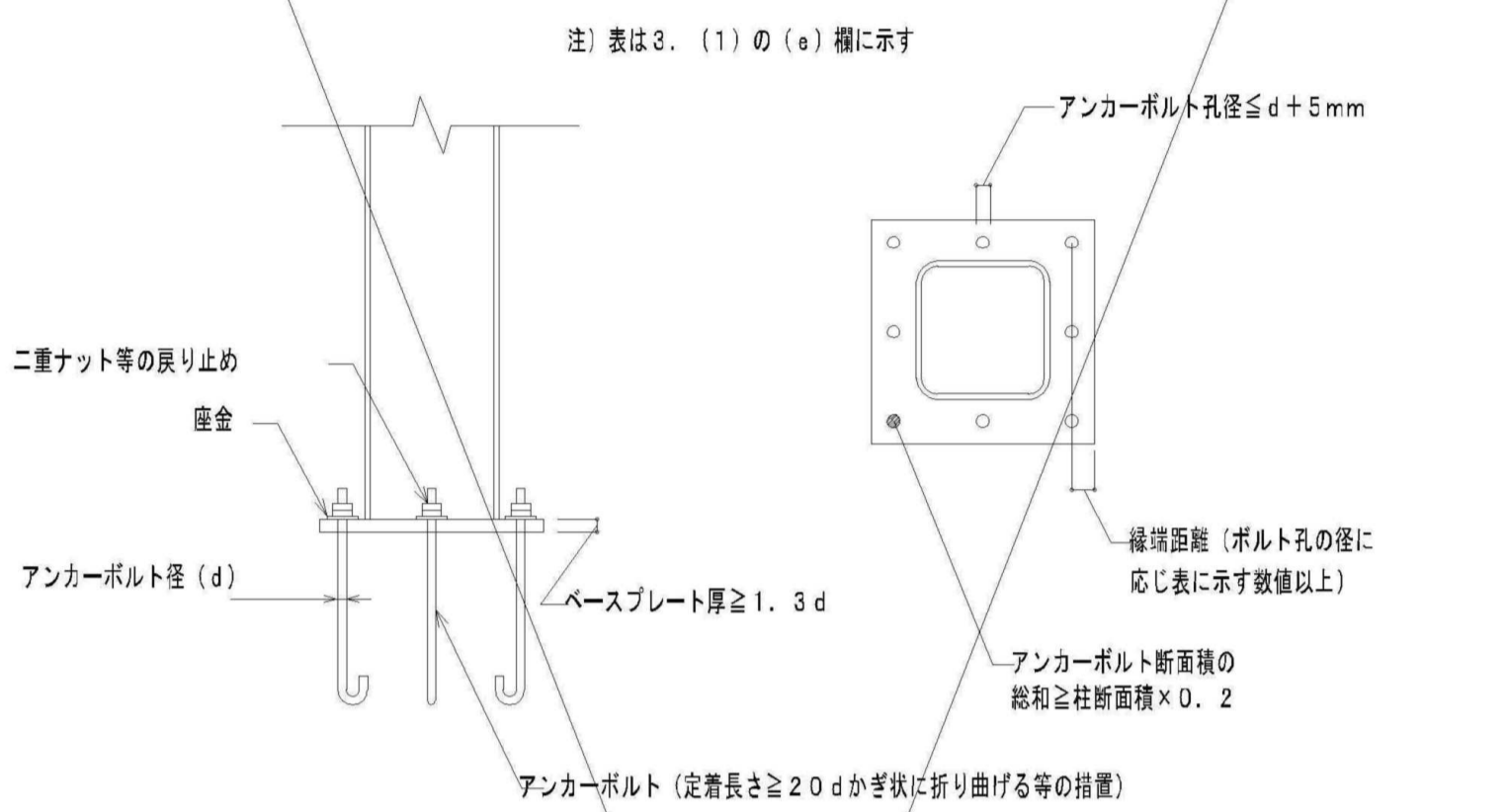


(8) 露出柱脚

(a) H形鋼 (ピン接合)

符号	部材	アンカーボルト		ベースプレート			備考
		径	L	本数	厚	A	

(b) 固定・半固定 (許容応力度等計算を行わない場合)

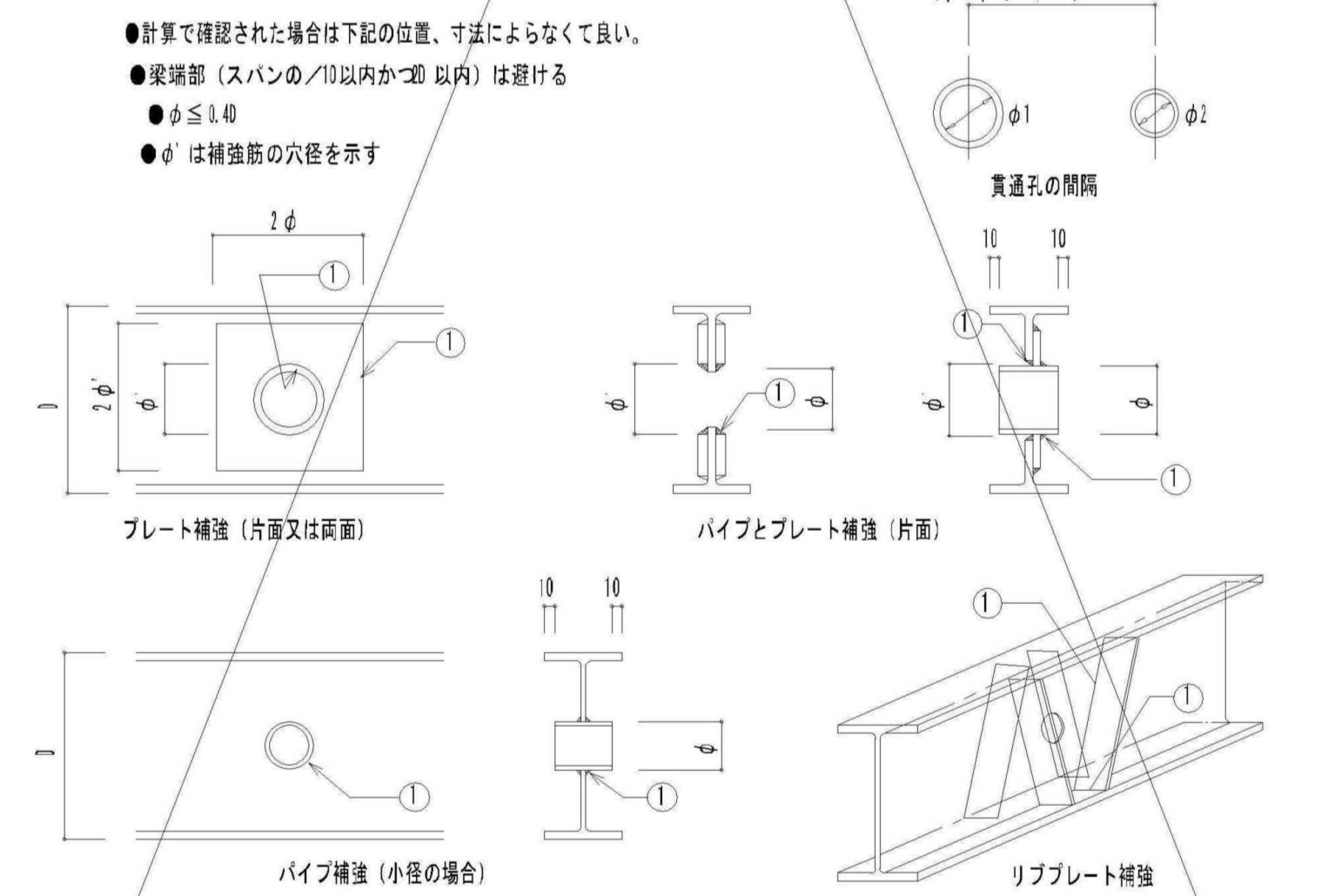


(9) 頭付きスタッド

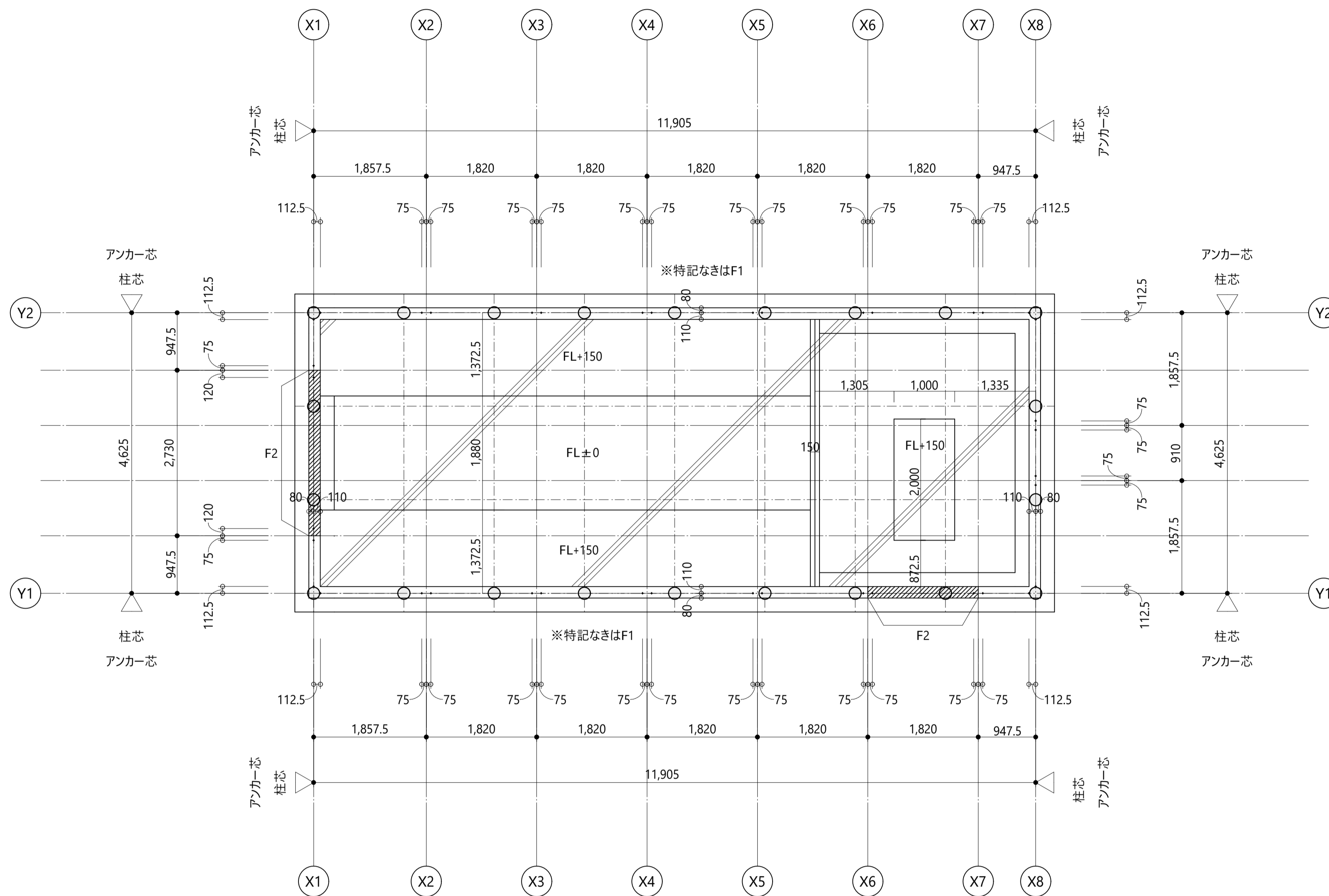
スタッド材の標準形状・寸法 (JIS 1198)

形状	スタッド材				
	呼び名	軸径 d mm	頭径 D mm	頭高さ T mm	溶接後の長さ L mm
	φ13 mm	13.0 12.7	22.0 21.4	10.0 7.9	50, 80, 100, 130
	φ16 mm	16.0 15.8	28.0 27.7	10.0 7.9	80, 100, 130
	φ19 mm	19.0 18.0	32.0 31.7	10.0 9.5	80, 100, 130, 150
	φ22 mm	22.0 22.2	35.0 34.9	10.0 9.5	100, 130, 150

(10) 梁貫通補強



スリーブ径	補強板
φ ≤ 0.15D	補強板不要
φ ≤ 0/4	板厚以上 (片面)
φ ≤ 0/3	板厚 x 1.2 倍以上 (片面)
φ ≤ 0.4D	板厚以上 (両面)



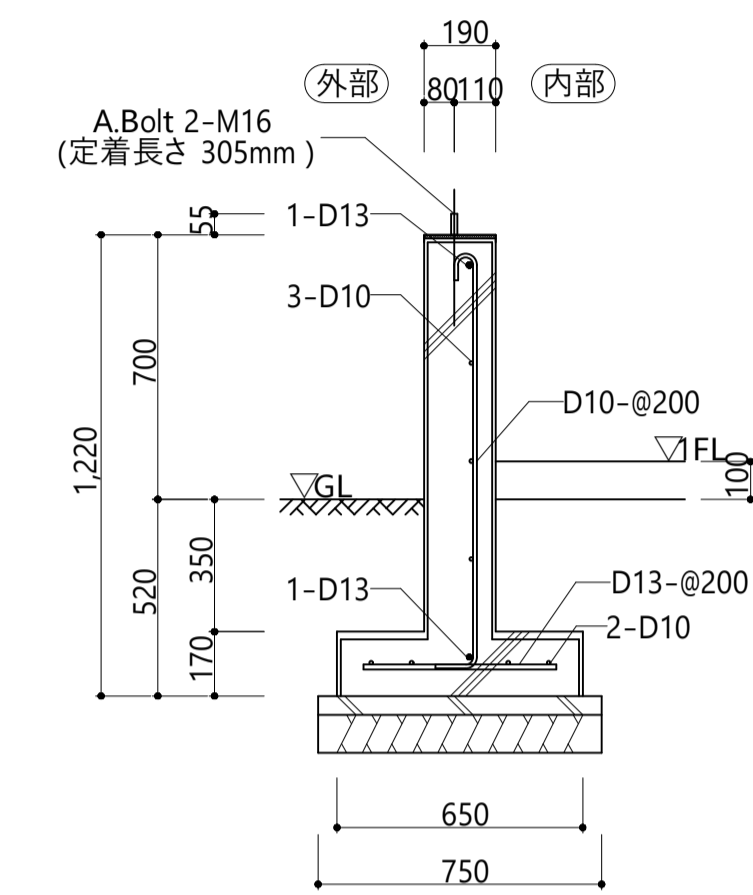
基礎切り下げ基礎天 -700

■基礎設定条件	
設計地耐力	: 長期 50 kN/m ² : 短期 100 kN/m ²
使用材料	
コンクリート:	Fc 21 N/mm ² (基礎、土間)
コンクリート:	Fc N/mm ² (捨てコン)
鉄筋	: SD295
○ H型PCパイル位置	: 200×200×4m 22本

基礎伏図 S = 1:50

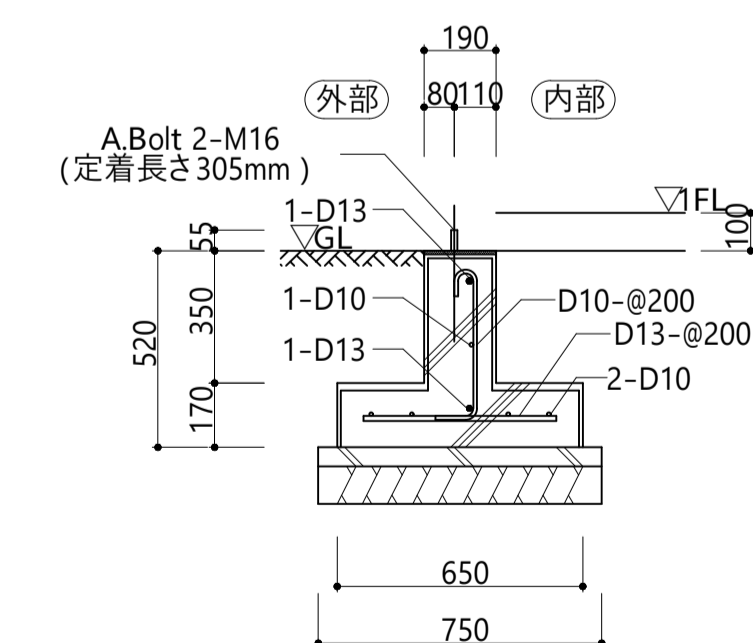
F1基礎詳細図

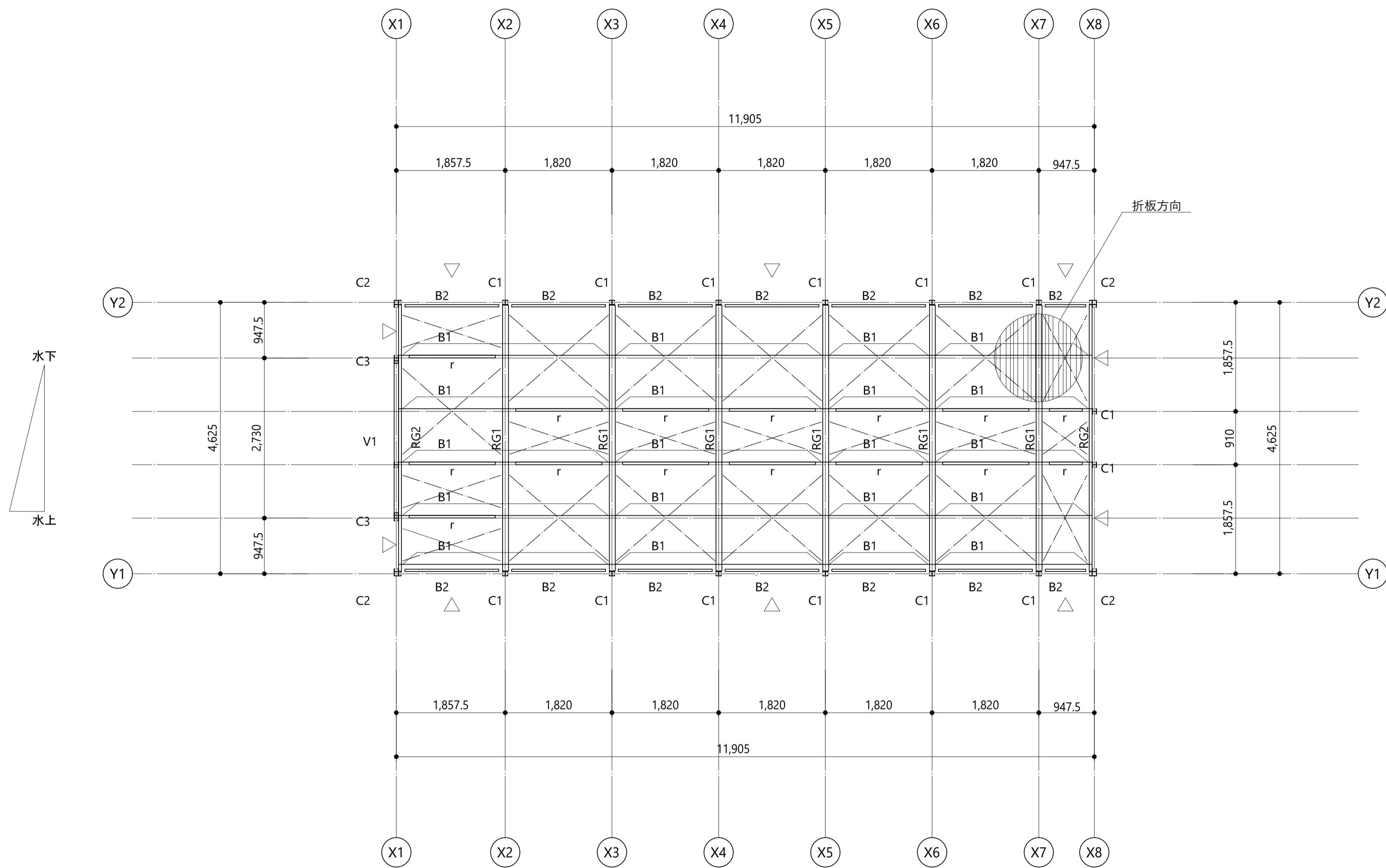
S = 1:20



F2基礎詳細図

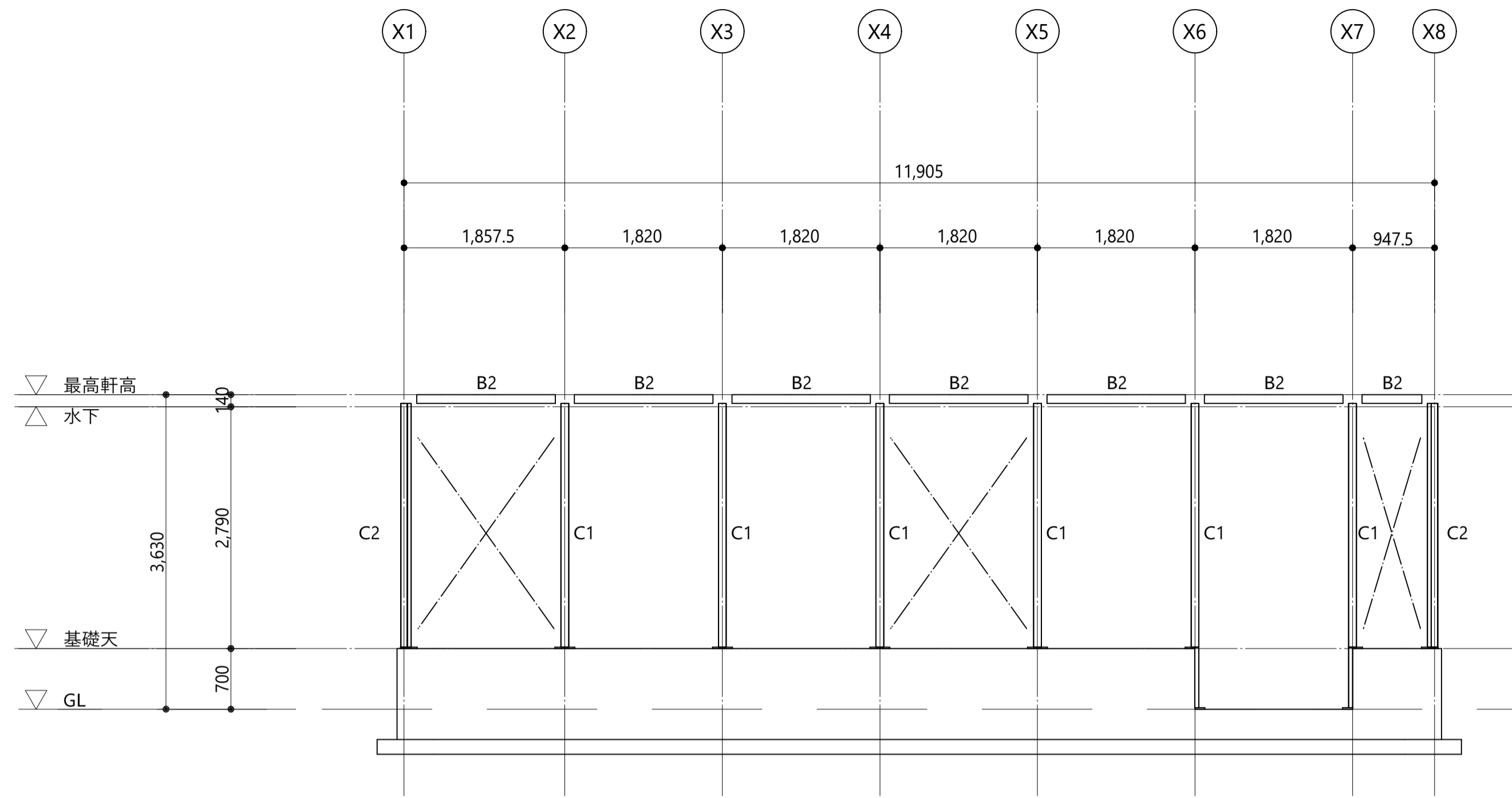
S = 1:20





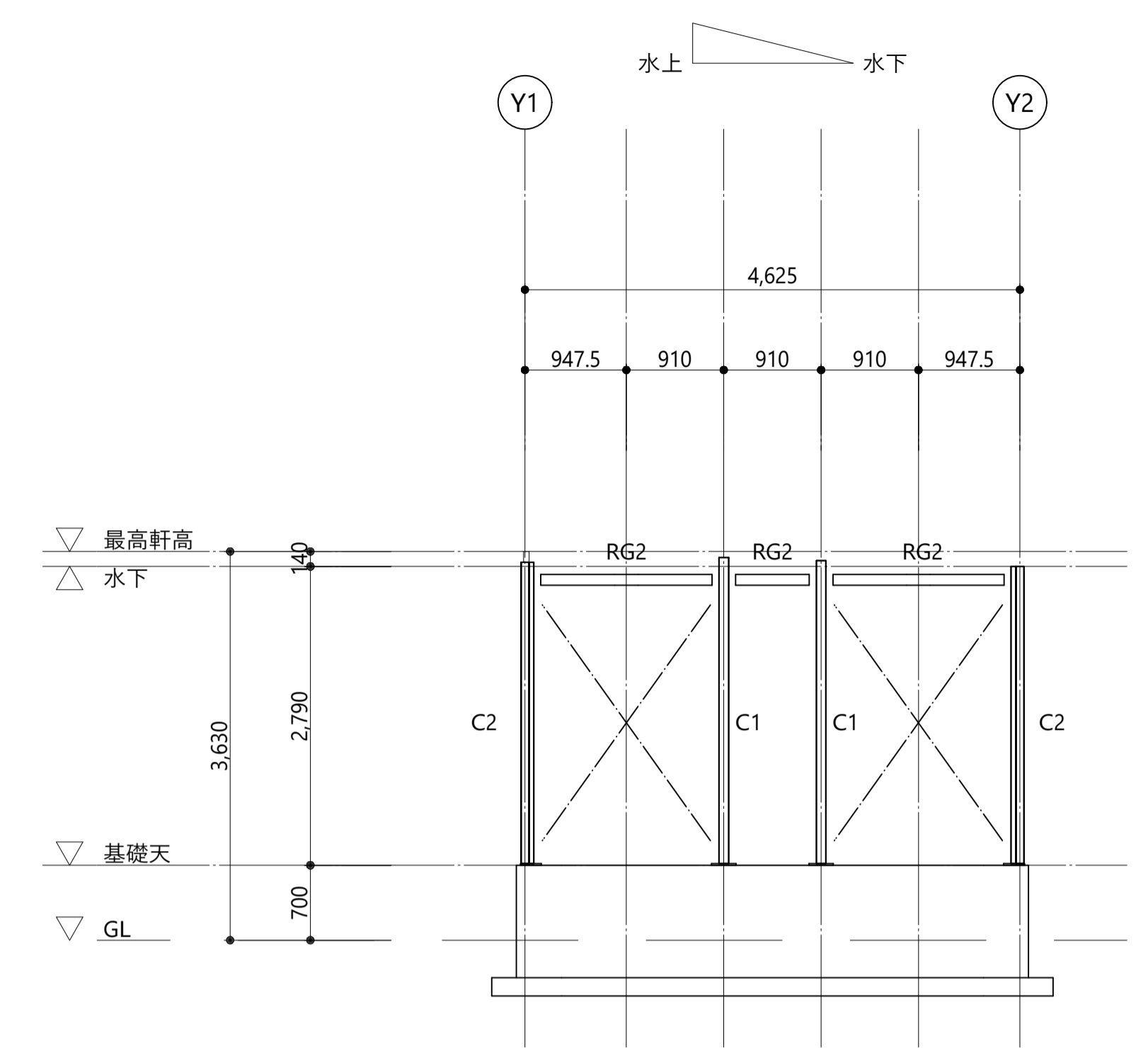
小屋梁伏図 S = 1:50

----- は、水平ブレース M12を示す
 △ は、柱ブレース M14を示す



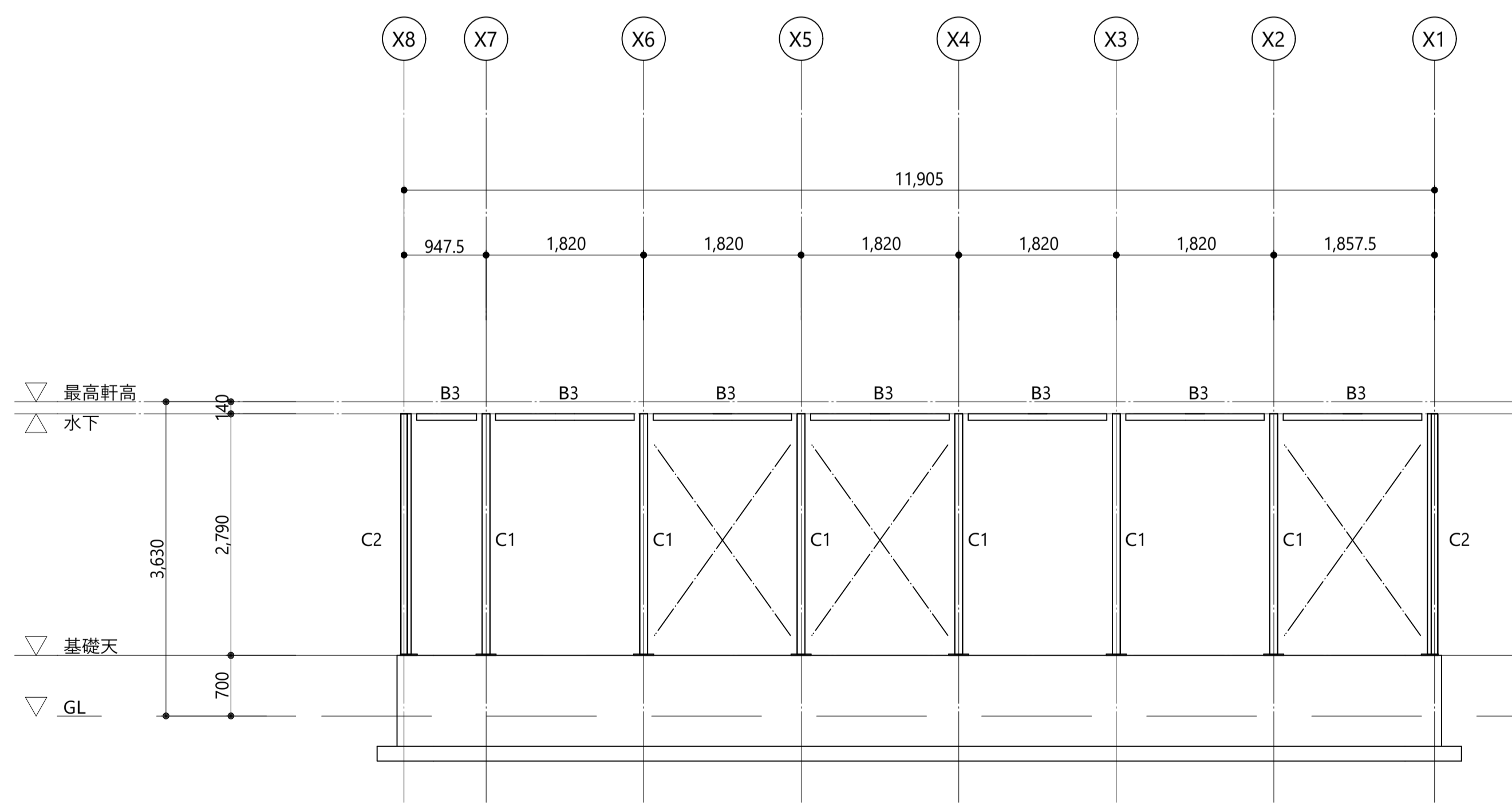
軸組図 Y1通り S=1:50

----- 柱ブレース M14を示す



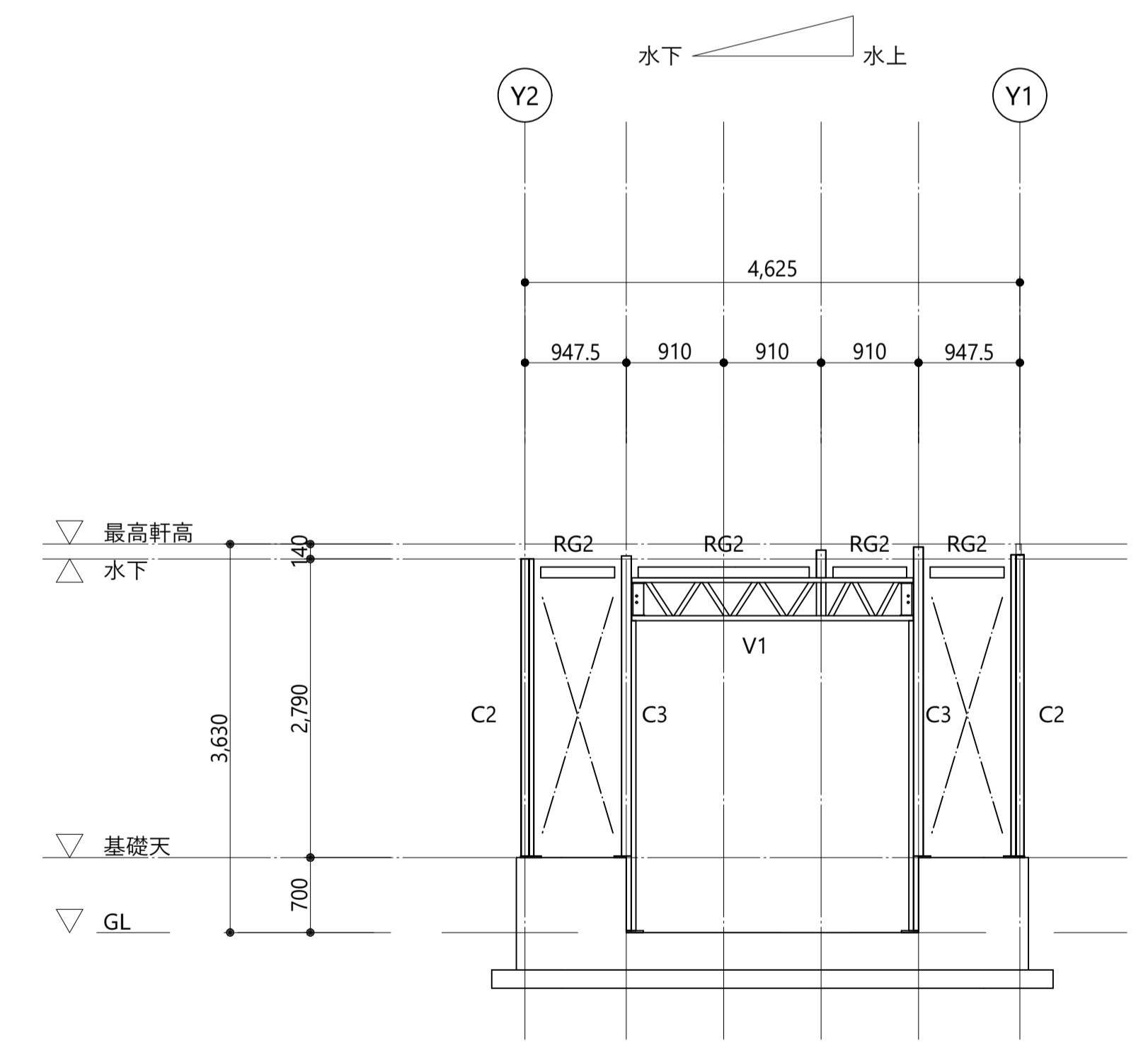
軸組図 X8通り S=1:50

----- 柱ブレース M14を示す



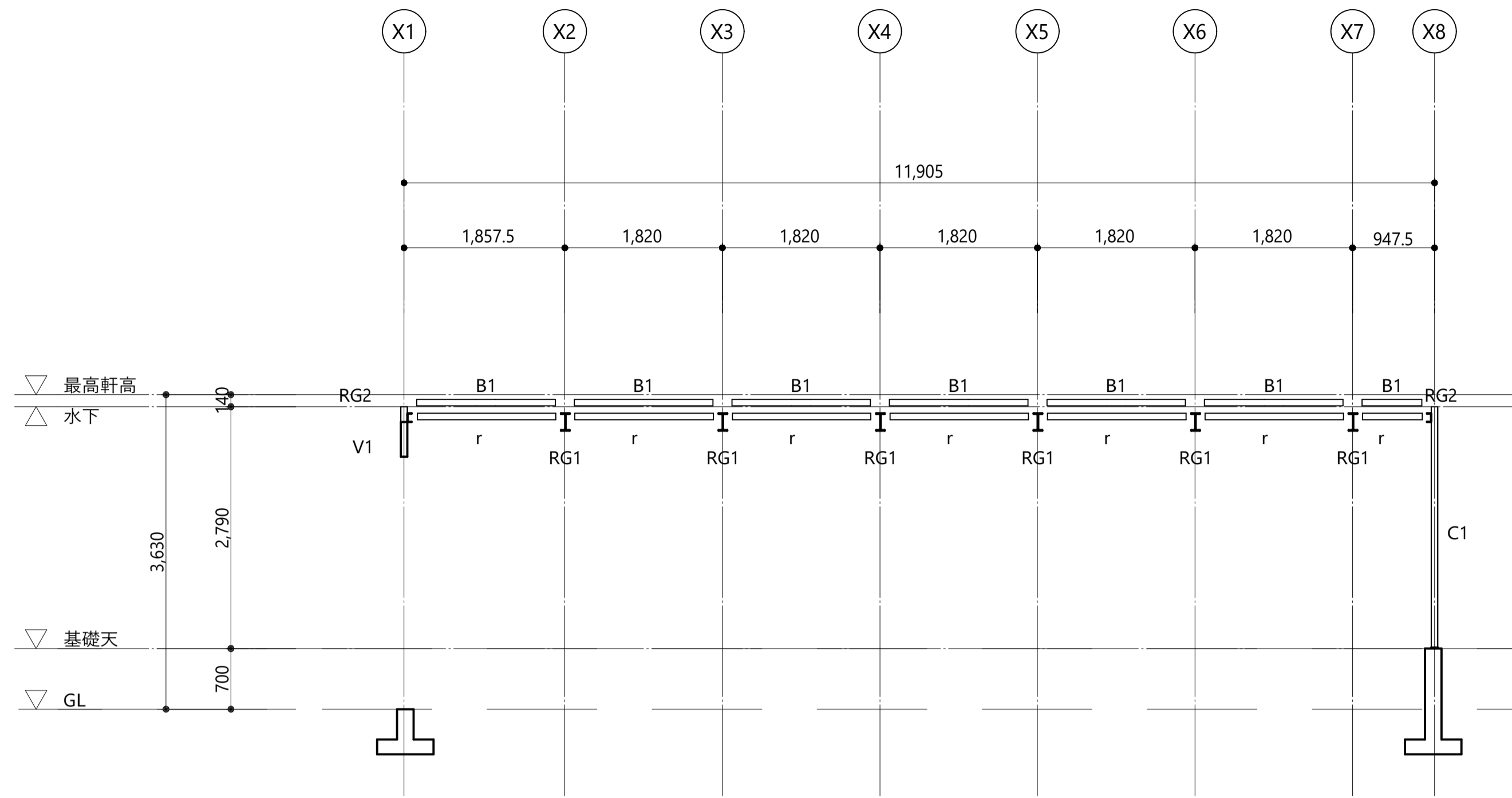
軸組図 Y2通り S=1:50

----- 柱ブレース M14を示す

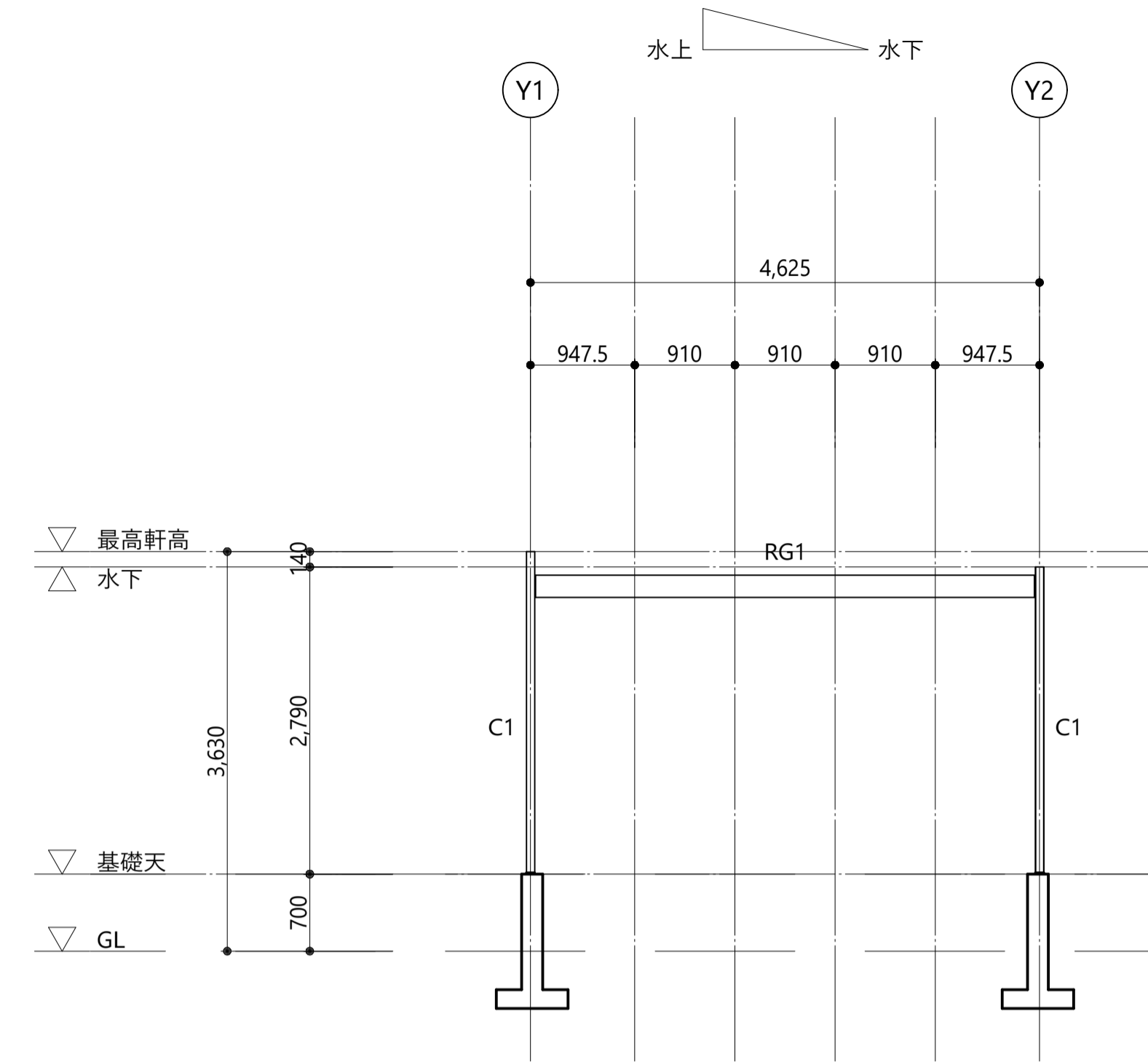


軸組図 X1通り S=1:50

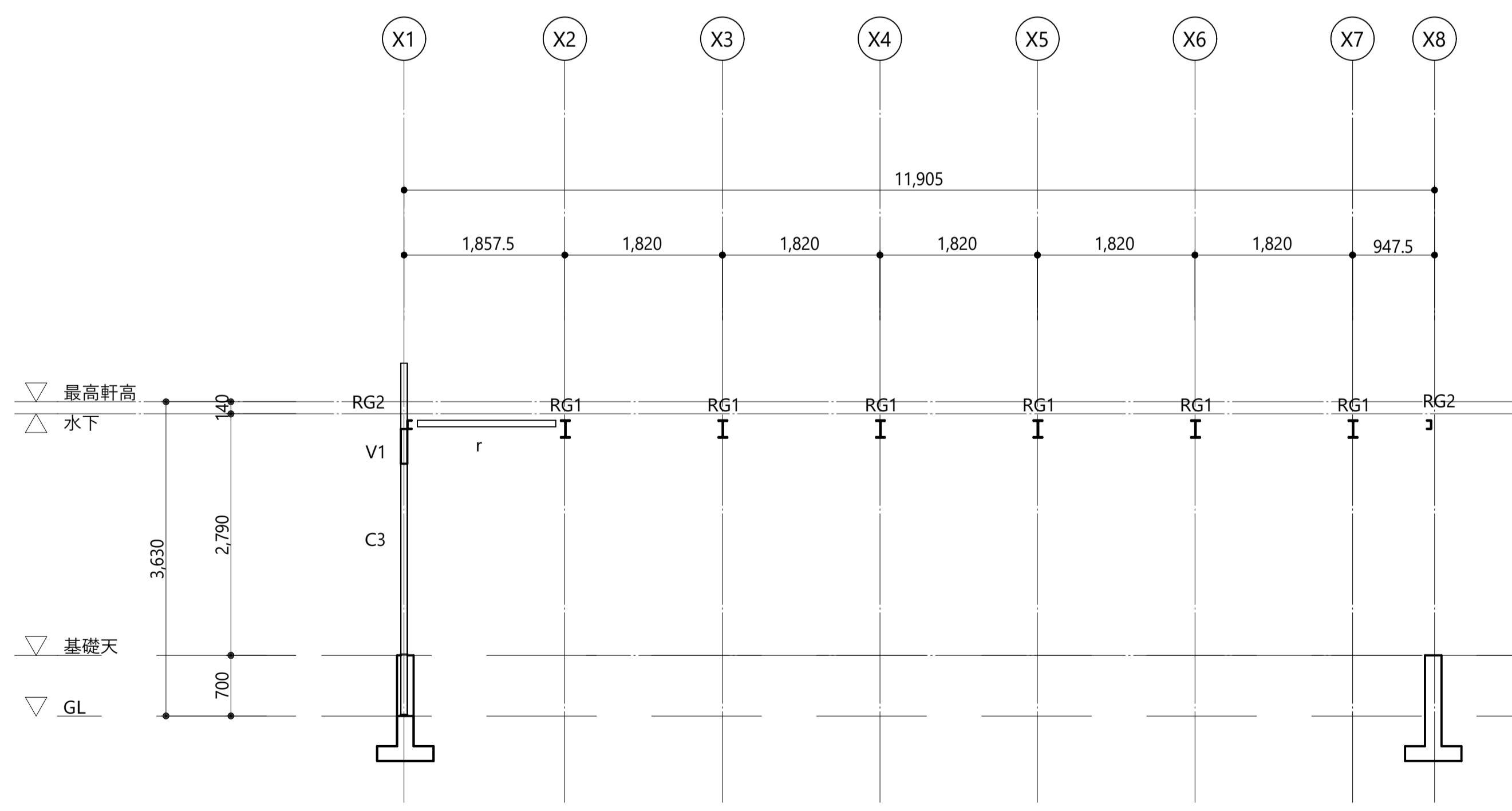
----- 柱ブレース M14を示す



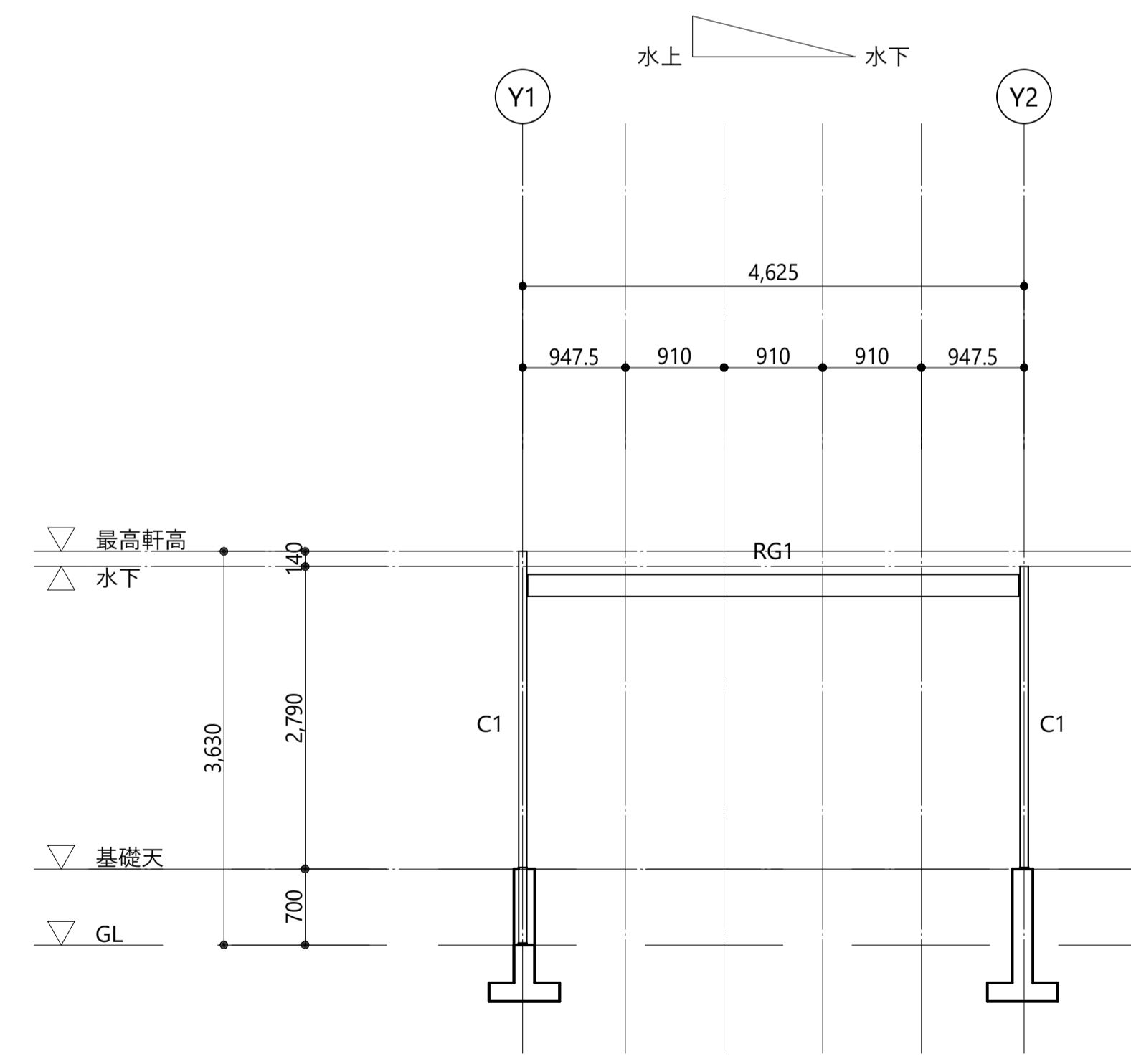
軸組図 Y1通り S = 1:50



軸組図 X1通り S = 1:50



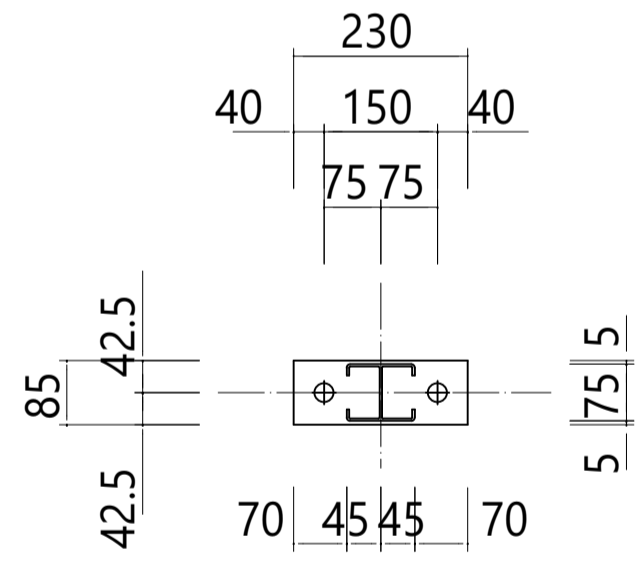
軸組図 Y2通り S = 1:50



軸組図 X6通り S = 1:50

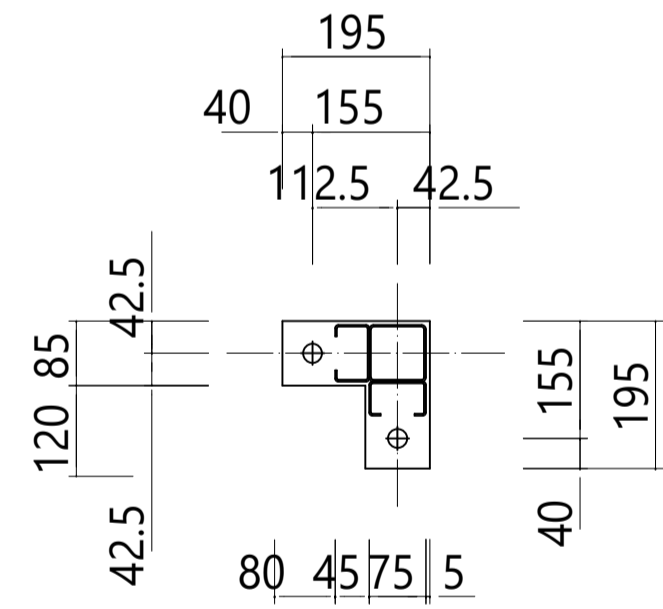
NB_部材リスト					
名称	構造符号	断面・材質	細長比	仕口 (プレート)	仕口 (ボルト)

妻柱・桁柱	C1	LipH-75x90x15x3.2x3.2 (SWH400L)	$\lambda=105$	B.PL-t=16	A.BOLT 2-M16,定着L=305 (全長L=400)
隅柱	C2	\square -75x75x2.3 (STKR400) + 2C-75x45x15x2.3 (SSC400)	$\lambda=75$	B.PL-t=16	A.BOLT 2-M16,定着L=305 (全長L=400)
妻面開口柱	C3	LipH-75x90x15x3.2x3.2 (SWH400L) + C-75x45x15x2.3 (SSC400)	$\lambda=88$	B.PL-t=16	A.BOLT 2-M16,定着L=305 (全長L=400)
小屋梁 (2.5K W)	RG1	H-200x100x5.5x8 (SS400)	$\lambda=82$	G.PL-t=6.0	中ボルト 2-M16
小屋梁 (S)	RG2	L [-100x50x3.2 (SSC400)	$\lambda=116$		中ボルト 2-M12
妻面開口梁	V1	上下弦材: C-75x45x15x2.3 (SSC400) ラチス材: C-75x45x15x2.3 (SSC400)	$\lambda=91$ $\lambda=25$	G.PL-t=6.0	中ボルト 2-M16
梁継	r	C-75x45x15x2.3 (SSC400)	$\lambda=108$	G.PL-t=4.5	中ボルト 2-M12
中間母屋	B1	2C-75x45x15x2.3 (SSC400)			中ボルト 1-M12
水上柱頭継 (母屋兼用)	B2	\square -100x50x2.3 (STKR400)	$\lambda=87$		中ボルト 1-M12
水下柱頭継 (母屋兼用)	B3	[-75x40x5x7 (SS400)	$\lambda=156$		中ボルト 1-M12
柱ブレース	M14	M14ターンバックル (SNR400B)		ブレースシート-6.0,羽子板PL-6.0	ボルト (強度区分10.9) 1-M16
水平ブレース	M12	M12ターンバックル (SNR400B)		ブレースシート-6.0,羽子板PL-6.0	ボルト (強度区分10.9) 1-M16



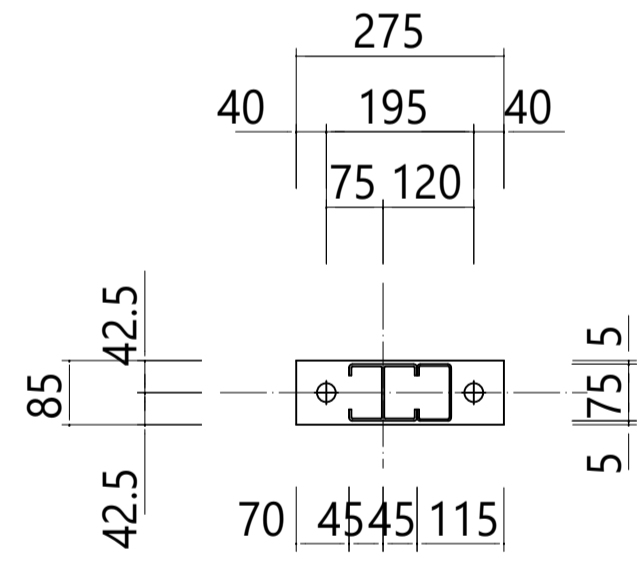
柱部材: LH-75x90x15x3.2x3.2
 BPL: PL-16
 A.Bolt: 2-M16 L=400 (定着Lb= 305)

C1柱脚詳細図 S = 1:10



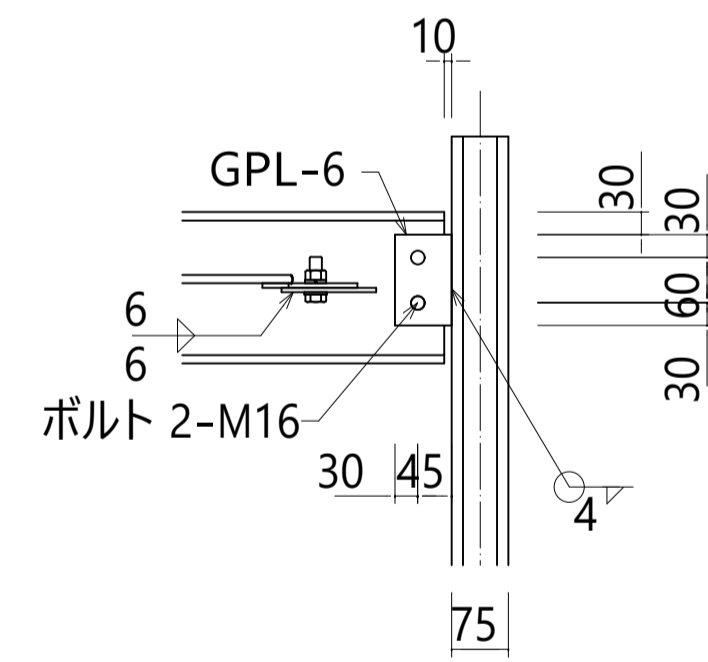
柱部材: 2C-75x45x15x2.3
 + \square -75x75x2.3
 BPL: PL-16
 A.Bolt: 2-M16 L=400 (定着Lb= 305)

C2柱脚詳細図 S = 1:10



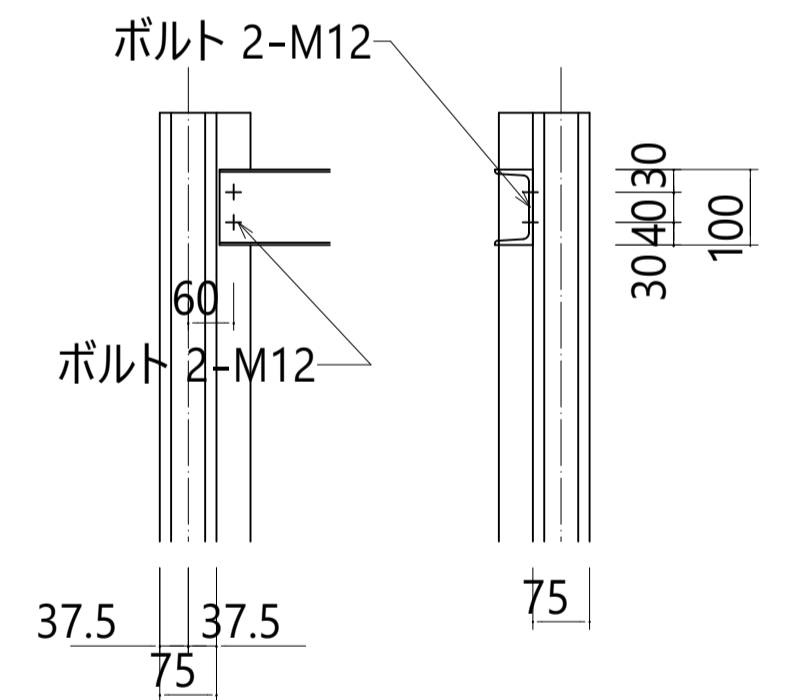
柱部材: LH-75x90x15x3.2x3.2
 +C-75x45x15x2.3
 BPL: PL-16
 A.Bolt: 2-M16 L=400 (定着Lb= 305)

C3柱脚詳細図 S = 1:10



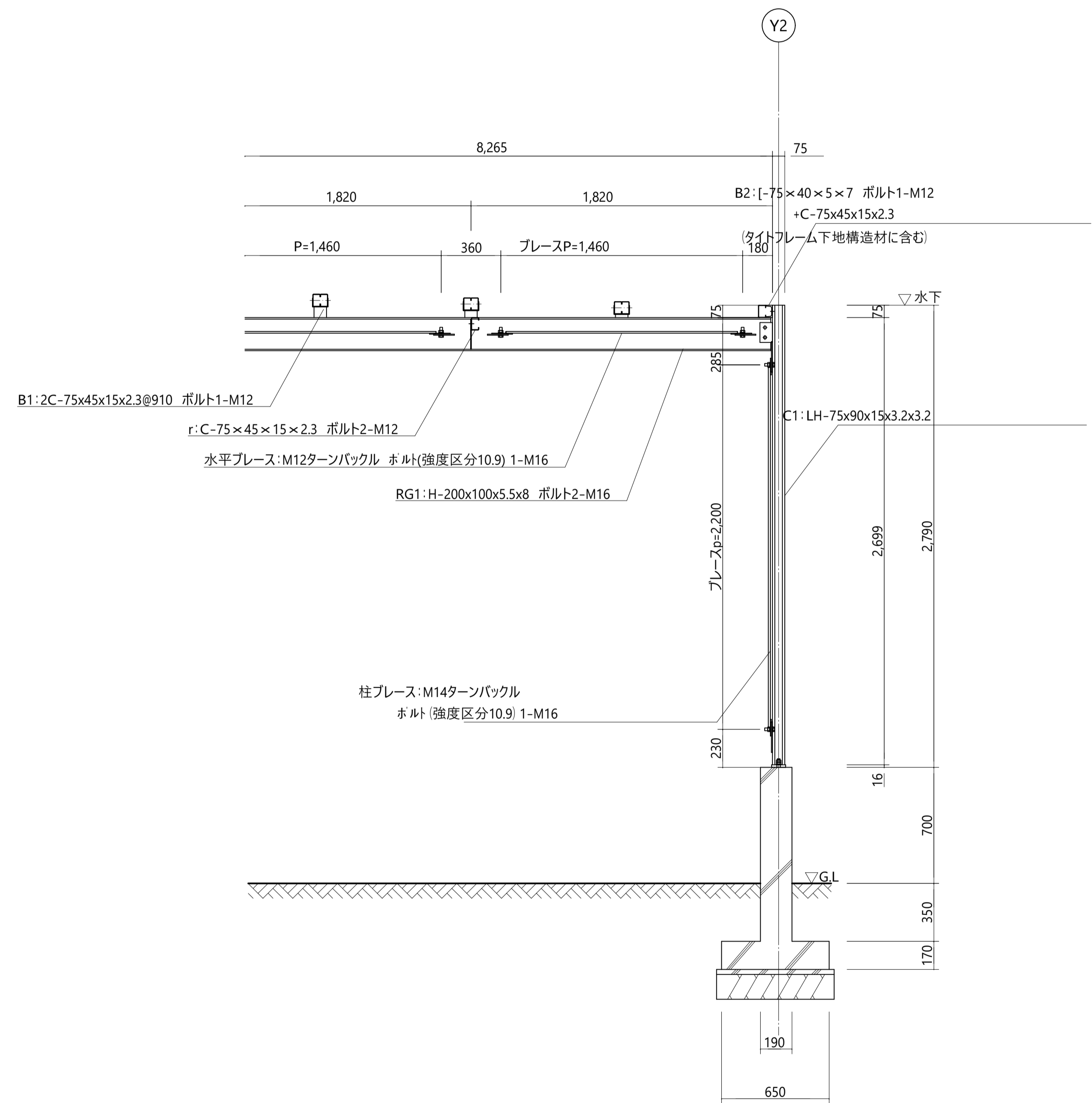
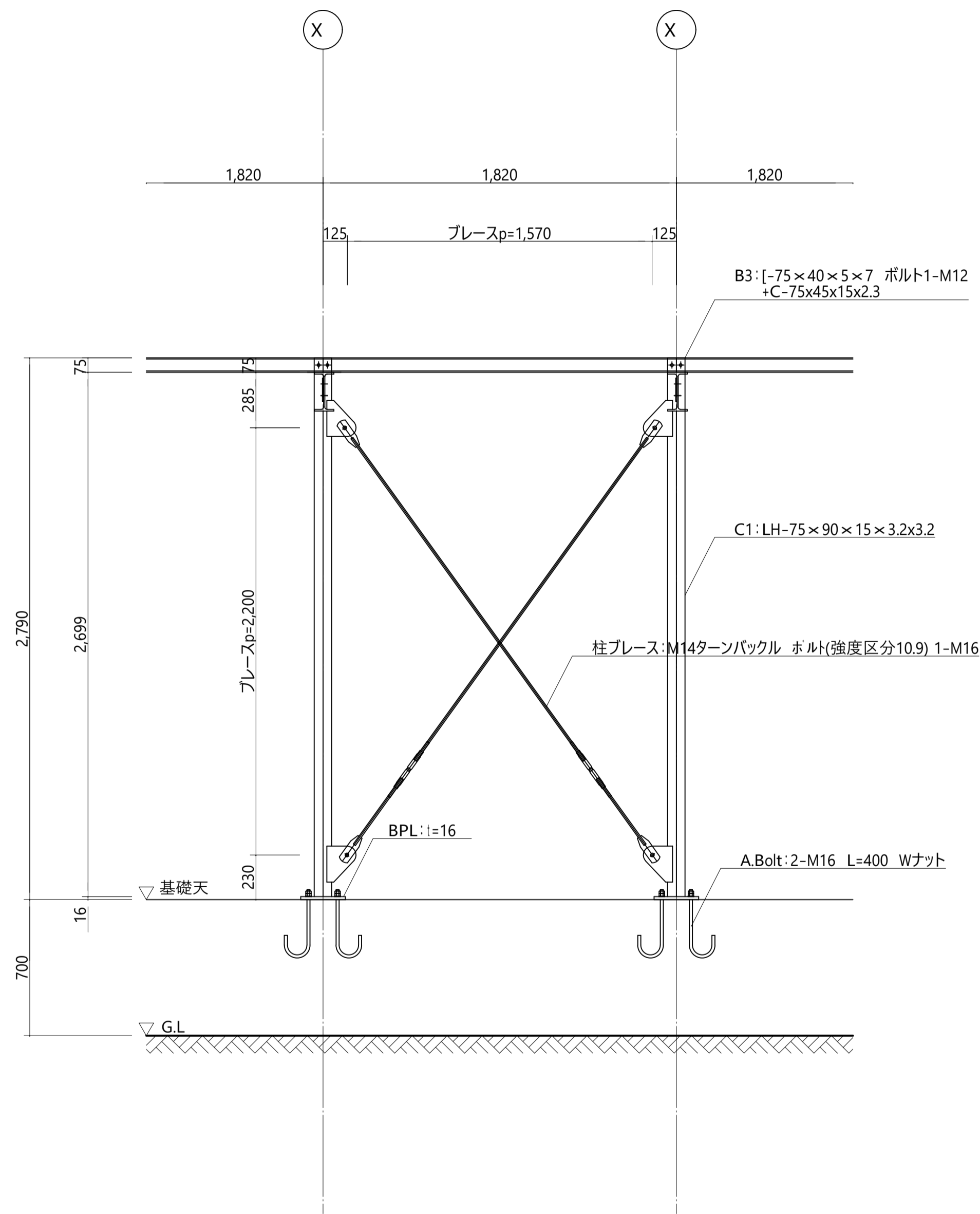
梁部材: H-200x100x5.5x8
 GPL: PL-6
 Bolt: 2-M16(中ボルト)

RG1詳細図 S = 1:10



梁部材: [-100x50x5x7.5
 Bolt: 2-M12(中ボルト)

RG2詳細図 S = 1:10



架構図 S = 1:20